

# 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホリジシニツツカケン 学校法人 日通学園								
フリガナ大学の名称	リュウツウケイザイダイガク 流通経済大学 (Ryutsu Keizai University)								
大学本部の位置	茨城県龍ケ崎市字平畑120番地								
大学の目的	本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、広く知識を授け人格の陶冶に努めるとともに、広く専攻分野に関する学問を研究教授し、もって産業の交流と文化の発展に寄与すべき優秀な人材を養成することを目的とする。								
新設学部等の目的	スポーツコミュニケーション学科では、スポーツをする・みる・ささえる人材のみでなく、広く社会一般においてスポーツから得た高度なコミュニケーション能力を活用できる人材の養成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	スポーツ健康科学部 [The Faculty of Health and Sport Sciences] スポーツコミュニケーション学科 [Department of Sport Communication]	4年	100人	— 年次人	400人	学士 (スポーツ健康科学)	年月 第年次 平成29年 4月1日 第1年次	茨城県 龍ケ崎市 字平畑120番地	
	計		100		400				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	流通経済大学 経済学部経済学科(定員減) 250→220(△30) (平成29年4月) 社会学部社会学科(定員減) 150→130(△20) (平成29年4月) 流通情報学部流通情報学科(定員減) 160→130(△30) (平成29年4月) 流通情報学部流通情報学科(編入学定員減) 2年次20→0(△20) (平成30年4月) 3年次10→0(△10) (平成31年4月)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科	196 科目	20 科目	38 科目	254 科目	124 単位			
教員組織の概要				専任教員等					兼任教員等
				教授	准教授	講師	助教	計	助手
				人	人	人	人	人	人
	新設分	スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	4 (4)	11 (11)	0 (0)	42 (42)
		計	5 (5)	2 (2)	0 (0)	4 (4)	11 (11)	0 (0)	— (—)
	既設分	経済学部 経済学科	14 (14)	7 (7)	5 (5)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	26 (26)
		経営学科	8 (8)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	28 (28)
		社会学部 社会学科	18 (18)	4 (4)	6 (6)	0 (0)	28 (15)	0 (0)	39 (39)
		国際観光学科	13 (13)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	17 (17)
		流通情報学部 流通情報学科	12 (12)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	25 (25)
		法学部 ビジネス法学科	9 (9)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	16 (16)
		自治行政学科	8 (8)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	14 (14)
		スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科	9 (9)	11 (11)	4 (4)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	26 (26)
		計	91 (91)	37 (37)	28 (28)	0 (0)	156 (156)	0 (0)	— (—)
	合計	96 (96)	39 (39)	28 (28)	4 (4)	167 (167)	0 (0)	— (—)	

教員以外の職員 の概要	職 種	専 任	兼 任	計
	事 務 職 員	79 人 (79)	29 (29)	108 人 (108)
	技 術 職 員	2 (2)	0 (0)	2 (2)
	図 書 館 専 門 職 員	6 (6)	2 (2)	8 (8)
	そ の 他 の 職 員	5 (5)	0 (0)	5 (5)
	計	92 (92)	31 (31)	123 (123)

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	103,689.58 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	103,689.58 m <sup>2</sup>					
	運 動 場 用 地	80,308.66 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	80,308.66 m <sup>2</sup>	運動場借用地				
	小 計	183,998.24 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	183,998.24 m <sup>2</sup>	45,286m <sup>2</sup>				
	そ の 他	8,230.00 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	8,230.00 m <sup>2</sup>	期間2016年4月～ 2037年3月				
合 計	192,228.24 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	192,228.24 m <sup>2</sup>						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		85,962.38 m <sup>2</sup> (85,962.38 m <sup>2</sup> )	— m <sup>2</sup> ( — m <sup>2</sup> )	— m <sup>2</sup> ( — m <sup>2</sup> )	85,962.38 m <sup>2</sup> (85,962.38 m <sup>2</sup> )					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	34 室	46 室	13 室	14 室 (補助職員 5 人)	23 室 (補助職員 0 人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		スポーツコミュニケーション学科		12 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での 特定不能なため 大学全体の数		
	スポーツコミュニケーション学科	321,658 [76,817] (321,658 [76,817])	993 [280] (993 [280])	270 [270] (270 [270])	259 (259)	2,777 (2,709)	0 (0)			
	計	321,658 [76,817] (321,658 [76,817])	993 [280] (993 [280])	270 [270] (270 [270])	259 (259)	2777 (2,709)	0 (0)			
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		5,275.88 m <sup>2</sup>		893	447,756					
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		4,861.84 m <sup>2</sup>		スポーツ健康センター(プール,トレーニングルーム,エアロビスタジオ)4,982.44 m <sup>2</sup> , 柔剣道場871.55m <sup>2</sup> , 多目的室内練習場1,701.01m <sup>2</sup> , トレーニングセンター278.37m <sup>2</sup>						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
	経費の見積り	教員1人当り研究費等		670千円	670千円	670千円	670千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	2,999千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	— 千円	— 千円	
		設備購入費	1,571千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り 納付金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次			
		1,426千円	1,123千円	1,123千円	1,123千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			学校法人の資産運用をもって充当する。							
大 学 の 名 称		流通経済大学								
既 設 大 学 等 の 状 況	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入 学 定 員	編 入 学 定 員	収 容 定 員	学 位 又 は 称 号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	
	経済学部	年	人	年次 人	人		倍		茨城県龍ヶ崎市 字平畑120番地	
										経済学科
	経営学科	4	150		600	学士 (経営学)	1.22	昭和45年度		
	社会学部	年	人	年次 人	人		倍		千葉県松戸市 新松戸3-2-1	
										社会学科
	国際観光学科	4	120	3年次20	520	学士 (社会学)	1.13	平成5年度		
	流通情報学部	年	人	年次 人	人		倍		茨城県龍ヶ崎市 字平畑120番地	
										流通情報学科
	法学部	年	人	年次 人	人		倍		千葉県松戸市 新松戸3-2-1	
										ビジネス法学科
	自治行政学科	4	100	3年次10	420	学士 (法学)	1.22	平成13年度		
	スポーツ健康科学部	年	人	年次 人	人		倍		茨城県龍ヶ崎市 字平畑120番地	
										スポーツ健康科学科
経済学研究科	年	人	年次 人	人		倍		茨城県龍ヶ崎市 字平畑120番地		
									経済学専攻	2
	3	5		15	博士 (経済学)	0.00	平成3年度			

社会学研究科 社会学専攻	2 3	10 5	20 15	修士(社会学) 博士(社会学)	0.25 0.07	平成4年度 平成6年度	
物流情報学研究科 物流情報学専攻	2 3	20 5	40 15	修士(物流情報学) 博士(物流情報学)	0.48 0.07	平成12年度 平成14年度	
法学研究科 リーガル・ガバナンス専攻	2	10	20	修士(法学)	0.10	平成17年度	
スポーツ健康科学研究科 スポーツ科学専攻	2	10	20	修士(スポーツ科学)	0.70	平成22年度	
附属施設の概要	山中湖セミナーハウス 山梨県南都留郡山中湖村 平成10年11月 694m <sup>2</sup>						

教育課程等の概要															
(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	1年演習 (ゼミ)	1通	4			○			3	1		3			
	2年演習 (ゼミ)	2通	4			○			2	2		4			
	3年演習 (ゼミ)	3通	4			○			5	2		4			
	4年演習 (ゼミ)	4通	4			○			5	2		4			
	情報基礎 I	1春・秋	2			○								兼3	
	スポーツ健康科学概論	1春・秋	2			○			1	1				兼11	オムニバス
	海浜実習	2春	2					○						兼1	
	小計 (7科目)	—	22					—	5	2		4		兼14	
	スポーツコミュニケーション概論	1春・秋	2			○			1	1					オムニバス
	スポーツコミュニケーション実習 (アドベンチャープログラム)	1春・秋	2					○				1			
	グローバルスポーツ演習	2秋	2					○		1					
	プレビジネスプログラム I	3秋	2					○						兼1	
	小計 (4科目)	—	8					—	1	1		1		兼1	
	Comprehensive English初級 I	1春		1		○									兼4
	Comprehensive English初級 II	1秋		1		○									兼4
	Introduction to TOEIC I	1春		1		○									兼4
	Introduction to TOEIC II	1秋		1		○									兼4
	English Communication初級 I	2春		1		○									兼3
	English Communication初級 II	2秋		1		○									兼3
	(外) 日本語 A I	1春		1		○									兼1
	(外) 日本語 A II	1秋		1		○									兼1
	(外) 日本語 B I	1春		1		○									兼1
	(外) 日本語 B II	1秋		1		○									兼1
	(外) 日本語 C I	2春		1		○									兼1
	(外) 日本語 C II	2秋		1		○									兼1
小計 (12科目)	—		12					—						兼11	
選択必修科目	RKU入門	1		1				○						兼1	集中
	RKU実践	2		1				○						兼1	集中
	キャリアデザイン	1・2春		2		○								兼3	
	キャリアマネジメント	1・2秋		2		○								兼2	
	キャリアカウンセリング	2・3・4秋		2		○								兼1	
	海外研修	1・2・3・4		2				○						兼1	集中
	(特) キャリア特講 (基礎)	1秋		2		○			1					兼5	オムニバス
	(特) キャリア特講 (発展)	2春		2		○								兼1	
	(特) キャリア特講 (職業)	3春		2		○								兼1	
	(特) グローバルコミュニケーション (基礎)	1春		1		○								兼1	
	(特) グローバルコミュニケーション (発展)	2秋		1		○								兼1	
	災害ボランティア I	1・2・3・4		1				○						兼1	集中
	災害ボランティア II	1・2・3・4		1				○						兼1	集中
	日本通運寄付講座	2・3・4秋		2		○								兼1	
	野村証券寄付講座	2・3・4春		2		○								兼1	
	全国通運連盟寄付講座	2・3・4秋		2		○								兼1	
	ダイレクトマーケティング実践講座	2・3・4春		2		○								兼1	
	インターンシップ基礎	2・3・4春・秋		2		○								兼1	
	インターンシップ	2・3・4秋		2				○						兼1	
	インターンシップ (海外)	1・2・3・4		2				○						兼1	集中
	キャリア基礎 (数理)	1・2春・秋		1		○								兼1	
	キャリア基礎 (言語)	1・2春・秋		1		○								兼1	
	キャリア発展 (数理)	1・2春・秋		1		○								兼1	
	キャリア発展 (言語)	1・2春・秋		1		○								兼1	
	職業選択論	3・4春		2		○								兼1	
小計 (25科目)	—		40					—	1					兼15	
教養基礎科目	哲学 I	1・2・3春		2		○								兼1	
	哲学 II	1・2・3秋		2		○								兼1	
	教育学 I	1・2・3春		2		○								兼1	
	教育学 II	1・2・3秋		2		○								兼1	
	心理学 I	1・2・3春		2		○								兼3	
	心理学 II	1・2・3秋		2		○								兼3	
	宗教学 I	1・2・3春		2		○								兼1	
	宗教学 II	1・2・3秋		2		○								兼1	
	言語論 I	1・2・3春		2		○								兼1	
	言語論 II	1・2・3秋		2		○								兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
教養 基礎 科目	現代文章論Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼3	
	現代文章論Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼3	
	イスラム学Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	イスラム学Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	(外)日本語表現法	1・2・3春		2		○								兼1	
	社会学Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	社会学Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	経済学Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	経済学Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	法学Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	法学Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	人文地理学Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	人文地理学Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	日本文化論Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	日本文化論Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	外国文化論(アジア)Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	外国文化論(アジア)Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	外国文化論(西欧)Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	外国文化論(西欧)Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	現代女性論Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	現代女性論Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	社会倫理学Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	社会倫理学Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	(外)日本事情	1・2・3春		2		○								兼1	
	数学Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	数学Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	地球科学Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	地球科学Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	生態学Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	生態学Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	生命科学Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	生命科学Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	自然地理学Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	自然地理学Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	文学(日本文学)Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼2	
	文学(日本文学)Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼2	
	歴史学入門(日本史)Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	歴史学入門(日本史)Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	歴史学入門(東洋史)Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	歴史学入門(東洋史)Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	歴史学入門(西洋史)Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	歴史学入門(西洋史)Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	民俗学Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	民俗学Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	考古学Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	考古学Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	美術史Ⅰ	1・2・3春		2		○								兼1	
	美術史Ⅱ	1・2・3秋		2		○								兼1	
	小計(58科目)	—		116		—								兼28	
	学 科 基 礎 科 目	コミュニケーション論	1春		2		○				1				兼1
		身体表現論	1春		2		○								兼1
		省察的学習論	2春		2		○				1				兼1
		フォローシップ論	2春		2		○								兼1
		実践コミュニケーション英語 (Task-Based English)	1春・秋		2			○			1				兼1
		スポーツ関連英語 (English in Action)	2春・秋		2		○				1				兼1
		英語資格支援講座 (Lifelong English)	3春		2		○								兼1
	小計(7科目)	—		14		—				2				兼4	
		スポーツ心理学	1秋		2		○								兼1
スポーツ社会学		1秋		2		○				1				兼1	
スポーツ政策論		1春		2		○								兼1	
スポーツ教育学		1秋		2		○				1				兼1	
スポーツ救急理論・実習Ⅰ		2・3春・秋		2				○						兼2	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
学部 基礎 科目	スポーツ史	2・3秋		2		○									兼1
	スポーツ哲学	2・3春		2		○									兼1
	スポーツ人類学	2・3春		2		○									兼1
	安全教育(学校安全を含む)	2・3春		2		○									兼1
	スポーツ医学	2・3春		2		○									兼1
	スポーツバイオメカニクス	2・3春		2		○									兼1
	精神保健学	2・3春		2		○									兼2
	衛生・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	2・3春		2		○									兼1
	学校保健学	2・3春		2		○									兼1
	機能解剖学 I	2・3春		2		○									兼1
	健康教育学	2・3春		2		○									兼2
	スポーツ栄養学 I	2・3春		2		○									兼1
	スポーツ生理学	2・3春		2		○									兼1
	スポーツ運動学	1春		2		○									兼1
	スポーツ技術・戦術論	1春		2		○									兼1
	体力トレーニング論	2・3春		2		○									兼1
	発育発達老化の理論・実習	2・3春		2				○							兼1
	メンタルトレーニング論	2・3秋		2		○									兼1
	アダブテッド・スポーツ論	2・3秋		2		○									兼1
	小計(24科目)	—		48		—				2					兼17
ス ポ ー ツ 実 技 科 目	体づくり運動	1・2・3春・秋		1				○							兼1
	器械運動	1・2・3春・秋		1				○		1					兼1
	陸上競技	1・2・3春・秋		1				○							兼1
	水泳・水中運動	1・2・3春・秋		1				○							兼1
	バスケットボール	1・2・3春・秋		1				○							兼1
	サッカー	1・2・3春・秋		1				○				1			兼1
	ラグビー	1・2・3春・秋		1				○							兼1
	アメリカンフットボール	1・2・3春		1				○							兼1
	野球・ソフトボール	1・2・3春・秋		1				○							兼1
	バレーボール	1・2・3春・秋		1				○							兼2
	テニス	1・2・3春・秋		1				○							兼1
	バドミントン	1・2・3春・秋		1				○							兼1
	柔道	1・2・3春・秋		1				○							兼1
	剣道	1・2・3春・秋		1				○		1					兼1
	ダンス	1・2・3春・秋		1				○				1			兼1
	新体操	1・2・3春・秋		1				○							兼1
小計(16科目)	—		16		—				2			2		兼15	
選 択 科 目	社会調査法	1春		2		○									兼1
	社会心理学	2・3秋		2		○									兼1
	グローバル化と文化	2・3秋		2		○									兼1
	障害者福祉論	2・3秋		2		○									兼1
	対人関係論	2・3春		2		○									兼1
	国際社会学	2・3秋		2		○									兼1
	地域社会学	2・3春		2		○									兼1
	開発社会学	2・3秋		2		○									兼1
	経営学総論 I	1春		2		○									兼1
	経営学総論 II	1秋		2		○									兼1
	事業創造論 I	2・3春		2		○									兼1
	事業創造論 II	2・3秋		2		○									兼1
	マーケティング論 I	2・3春		2		○									兼1
	マーケティング論 II	2・3秋		2		○									兼1
	人的資源管理論 I	2・3春		2		○									兼1
	人的資源管理論 II	2・3秋		2		○									兼1
	起業家育成講座 I	2・3春		2		○									兼1
	起業家育成講座 II	2・3秋		2		○									兼1
	情報学概論 I	1春		2		○									兼1
	情報学概論 II	1秋		2		○									兼1
	通信・ネットワーク概論	2・3春		2		○									兼1
	情報応用システム論	2・3秋		2		○									兼1
	憲法 I	2・3春		2		○									兼1
憲法 II	2・3秋		2		○									兼1	
スポーツマネジメント概論	1秋		2		○					1				兼1	
スポーツマネジメント演習	2春		2				○			1				兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
専門 発展 科目	スポーツと地域開発	2春		2		○				1					オムニバス
	スポーツと国際協力	2秋		2		○				1					
	スポーツマネジメント実習	3春・秋		2				○		2					
	スポーツ情報・メディア概論	1秋		2		○									
	ジャーナリズム論・演習	2秋		2			○		1						
	スポーツ情報戦略・分析論	2春		2		○									
	スポーツ・ジャーナリズム実習	3秋		2				○	1						
	スポーツ・インテリジェンス実習	3秋		2				○							
	コーチング概論	1秋		2		○						1			
	コーチング演習	2春		2			○					1			
	専門コーチング演習Ⅰ (子どもスポーツ)	2秋		2			○		1						
	専門コーチング演習Ⅱ (ボールゲーム)	2秋		2			○					1			
	専門コーチング演習Ⅲ (武道)	2秋		2			○		1						
	専門コーチング演習Ⅳ (表現系スポーツ)	2秋		2			○					1			
	コーチング実習	3春・秋		2				○				1			
	プレビジネスプログラムⅡ	4春		2				○						兼1	
小計(42科目)	—		84			—		3	2		3		兼15		
選 択 科 目	資格 基 礎 科 目														
	教育社会学概論	1春		2		○			1						
	保健体育科教育法Ⅰ	2春		2		○			1						
	保健体育科教育法Ⅱ	3春		2		○								兼1	
	教育原理	1春		2		○								兼1	
	エアロビック運動の理論	1秋		2		○								兼1	
	教師論	1秋		2		○								兼1	
	教育心理学	1春		2		○								兼1	
	教育相談	2春		2		○								兼1	
	生徒指導論	2春		2		○								兼1	
	教育課程論	2秋		2		○								兼1	
	特別活動論	2秋		2		○								兼1	
	健康管理学	2秋		2		○								兼1	
	健康づくりと運動プログラム	2春		2		○								兼1	
教育方法学	3春		2		○								兼2		
小計(14科目)	—		28			—		3					兼8		
外 国 語 選 択 科 目	選択初級ドイツ語Ⅰ	1・2・3・4春		1		○								兼1	
	選択初級ドイツ語Ⅱ	1・2・3・4秋		1		○								兼1	
	選択初級フランス語Ⅰ	1・2・3・4春		1		○								兼1	
	選択初級フランス語Ⅱ	1・2・3・4秋		1		○								兼1	
	選択初級中国語Ⅰ	1・2・3・4春		1		○								兼1	
	選択初級中国語Ⅱ	1・2・3・4秋		1		○								兼1	
	選択初級スペイン語Ⅰ	1・2・3・4春		1		○								兼1	
	選択初級スペイン語Ⅱ	1・2・3・4秋		1		○								兼1	
	選択初級朝鮮(韓国)語Ⅰ	1・2・3・4春		1		○								兼1	
	選択初級朝鮮(韓国)語Ⅱ	1・2・3・4秋		1		○								兼1	
	選択初級ポルトガル語・ブラジル語Ⅰ	1・2・3・4春		1		○								兼1	
	選択初級ポルトガル語・ブラジル語Ⅱ	1・2・3・4秋		1		○								兼1	
	Comprehensive English 中級Ⅰ	2・3・4春		1		○								兼1	
	Comprehensive English 中級Ⅱ	2・3・4秋		1		○								兼1	
	English Writing Ⅰ	2・3・4春		1		○								兼1	
	English Writing Ⅱ	2・3・4秋		1		○								兼1	
	メディア英語Ⅰ	2・3・4春		1		○								兼1	
	メディア英語Ⅱ	2・3・4秋		1		○								兼1	
	資格英語Ⅰ	2・3・4春		1		○								兼1	
	資格英語Ⅱ	2・3・4秋		1		○								兼1	
	English Reading Ⅰ	2・3・4春		1		○								兼1	
	English Reading Ⅱ	2・3・4秋		1		○								兼1	
(外) ビジネス日本語Ⅰ	2・3・4春		1		○								兼1		
(外) ビジネス日本語Ⅱ	2・3・4秋		1		○								兼1		
English Communication 中級Ⅰ	3・4春		1		○								兼1		
English Communication 中級Ⅱ	3・4秋		1		○								兼1		



教 育 課 程 等 の 概 要														
(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	小計 (26科目)	—		26										兼11
自由 科目 資格 発展 科目	体育授業理論実習Ⅰ	2春			2			○	1					兼1
	体育授業理論実習Ⅱ	3秋			2			○						兼1
	体育授業理論実習Ⅲ	3秋			2			○	1					兼3
	教職実践演習	4秋			2		○		1					兼2
	教育実習 (事前指導)	3秋			1		○		1					兼2
	教育実習 (中学校)	4通			3			○	1					兼2
	教育実習 (高等学校)	4通			1			○	1					兼2
	教育史	1秋			2	○								兼1
	道徳教育論	2春			2	○								兼1
	学校教育現場実習	2春			1			○	1					兼1
	介護入門	3春			2		○							兼1
	測定評価理論・実習	1秋			2			○						兼1
	トレーニング実習	1春・秋			1			○						兼2
	コンディショニング理論・実習Ⅰ (基礎)	1春			2			○						兼1
	エアロビックダンス	1春			1			○	1					兼1
	スポーツ外傷・障害と予防	2秋			2	○								兼1
	ジョギング・ウォーキング	2春			2		○							兼1
	スポーツ救急理論・実習Ⅱ	3秋			2			○						兼1
	健康産業施設等現場実習	3通			1			○						兼1
小計 (19科目)	—			33				4					兼11	
合計 (254科目)		—	30	384	33				5	2		4		兼119
学位又は称号	学士 (スポーツ健康科学)		学位又は学科の分野			体育関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
《卒業要件単位》 124単位						1 学年の学期区分					2学期			
《履修方法》 学部必修科目・学科必修科目より28単位、外国語科目より6単位、選択必修科目と選択科目を含め90単位以上履修する。 ・学部必修科目22単位、学科必修科目は6単位、合わせて28単位を必修。 ・外国語は、「Comprehensive English初級Ⅰ・Ⅱ」「Introduction to TOEICⅠ・Ⅱ」「English Communication初級Ⅰ・Ⅱ」の合計6単位を必修。 外国人留学生は、英語に替えて「(外)日本語AⅠ・Ⅱ」「(外)日本語BⅠ・Ⅱ」「(外)日本語CⅠ・Ⅱ」の合計6単位を必修。 ・選択必修科目は、キャリア科目より6単位以上、教養基礎科目より16単位以上、学科基礎科目より8単位以上、学部基礎科目より20単位以上、スポーツ実技科目より7単位以上を履修。 ・その他、選択必修科目及び選択科目から33単位以上を履修。  (注) 外国語の科目は、選択必修科目に含まれるスポーツ専門英語より2単位以上履修するため、合計8単位を履修することになる。  《履修単位の上限》 ・年間の履修単位数の上限：1・2学年44単位、3・4学年49単位 ・学期の履修単位数の上限：1・2学年26単位、3・4学年28単位						1 学期の授業期間					15週			
						1 時限の授業時間					90分			

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目 学部必修科目	1年演習 (ゼミ)	4年間におたる大学生生活の基盤を養うことを目標として、「読む・聞く・書く・まとめる」といった基本的な学習技能(ラーニングスキル)の習得と、ペアワークやグループワークによるディスカッションやプレゼンテーションを通して協働作業に必要なコミュニケーションと、チームワークを高めるためのリーダーシップやフォロワーシップなどを実践的に学ぶ。さらに自己評価や他者評価などを含めた振り返りによる省察を深めることで、自己のコミュニケーションスキルの向上を目指す。	
	2年演習 (ゼミ)	1年次に学んだコミュニケーションをスポーツ科学の専門分野へ発展させていくことを視野において、学修ポートフォリオを活用し、自身が目指すキャリアと大学での学びを統合させるべく、自己の学習スタイルを確立する。学生が授業で作成したレポートや論文、課題達成のために収集した資料や、学修の過程において学んだ点や気付いた点などを記録する学修ポートフォリオを作成する。また1年次で学んだラーニングスキルに加え、プレゼンテーションスキルの習得、リーダーシップやフォロワーシップをさらに高めることを学ぶ。	
	3年演習 (ゼミ)	1~2年次で学んだ知識や技能を基に、外部の団体や専門家と連携しながらグループで「プロジェクト(実践的活動)」を計画Plan→実行Do→評価Seeし、これまでに学んだことを再確認する。自己、他者、集団でのコミュニケーションを通して、自らの言動や行動について省察し、スポーツ活動の創出に必要なコミュニケーションの習得、またさらにその能力を高めることを目指す。またプロジェクトの遂行を通して、組織や集団に必要な専門的な知識やスキルについて理解を深める。	
	4年演習 (ゼミ)	3年次に選択した「プロジェクト(実践的活動)」の遂行における個人、グループ、組織での課題や成果について振り返り、計画や行動の改善を通して課題解決できる能力を身につける。また、これまで学修した理論と実践の融合を図り、プロジェクトの遂行に必要な専門的な知識やスキルに限らず、そこで身につけた能力を実社会において必要な汎用的能力として転換させることを学ぶ。また活動から得た経験や情報を基に、広い視野から物事を考え、キャリアデザインについて考えることができる。	
	情報基礎 I	情報基礎 I では、1年次基礎演習 (ゼミ) を中心に、大学生としての学習への様々な情報機器・技術を活用する能力と日常生活や知的活動において情報を扱うために必要な基礎能力の習得を目標とする。特に、本学における学習情報環境 (Ring) を有効活用できるスキル、およびグループ学習に必要な情報活用能力(情報リテラシー)の基礎を習得する。本科目では、経験度別に履修クラスを編成している。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	学部 必修科目	<p>体育・スポーツおよび健康科学に関する基礎的な内容についての理解を深めるとともに、今後の学部カリキュラムで展開する基礎専門科目ならびに専門発展科目の修得に対して、意欲的な学修行動に繋げていくことを目的とする。スポーツ健康科学に関する専門分野について、概論的に学ぶ。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(67 田畑 亨/1回) 到達目標、スケジュール、成績評価の方法などについて解説する。 (16 上野 裕一/1回) コーチング論の概論、学ぶ意義、研究方法・例などについて解説する。 (7 荒井 宏和/1回) スポーツ情報戦略の概論、学ぶ意義、研究方法・例などについて解説する。 (18 大槻 毅/1回) スポーツ生理学の概論、学ぶ意義、研究方法・例などについて解説する。 (50 山田 睦雄/1回) スポーツ医学の概論、学ぶ意義、研究方法・例などについて解説する。 (31 高松 潤二/1回) スポーツバイオメカニクスの概論、学ぶ意義、研究方法・例などについて解説する。 (58 亀山 巖/1回) トレーニング論の概論、学ぶ意義、研究方法・例などについて解説する。 (79 膳法亜沙子/1回) スポーツ栄養学の概論、学ぶ意義、研究方法・例などについて解説する。 (1 柴田 一浩/1回) スポーツ教育学の概論、学ぶ意義、研究方法・例などについて解説する。 (33 田養健太郎/1回) スポーツ人類学の概論、学ぶ意義、研究方法・例などについて解説する。 (69 福ヶ迫善彦/1回) 体育科教育学の概論、学ぶ意義、研究方法・例などについて解説する。 (5 西機 真/1回) スポーツマネジメントの概論、学ぶ意義、研究方法・例などについて解説する。 (24 坂本 充/1回) 健康スポーツ論の概論、学ぶ意義、研究方法・例などについて解説する。 (67 田畑 亨/1回) スポーツ政策論の概論、学ぶ意義、研究方法・例などについて解説する。 (67 田畑 亨/1回) 全体まとめ。</p>	オムニバス方式
	海浜実習	<p>キャンパスを離れた非日常的な自然環境の中で、集団生活を通して仲間とのコミュニケーションを構築しながら、様々な水辺活動を取り入れた自然体験型プログラムを実践する。またその背景には、安全に対して計画的に運営されるプログラムでありながらも、自然の変化を自らが状況判断し、仲間と協働して問題解決を試み、能動的に行動する力が求められることを理解する。その結果、本プログラムが学科カリキュラムの特徴を実践的なOJTによって実現させる機会となることを目標とする。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科必修科目  必修科目	スポーツコミュニケーション概論	スポーツコミュニケーション概論では、スポーツとコミュニケーションの関与の仕方を「スポーツにおける (in)」「スポーツのための (for)」「スポーツを通じた (through)」と捉え、まず、スポーツの様々な場で生じるコミュニケーションについて事例も交えながら概説する。また、スポーツの専門領域のうち、コミュニケーションが特に重要と考えられるコーチング、スポーツマネジメント、スポーツ情報・メディア、スポーツ教育学の立場から、コミュニケーション能力の必要性やその専門領域を学修することとコミュニケーション能力を高めることの関連性について概説する。(オムニバス方式/全15回) (② /7回) オリンピック等の国際イベントでの事例を中心に、スポーツに関与する様々なコミュニケーションについて事例をもとに概説する。またスポーツが社会とどのようにつながりを持つのかについても理解を深めさせることを目的とする。 (⑤ 西機 真/2回) スポーツマネジメントの概論、スポーツコミュニケーションという観点からの学ぶ意義、学びの事例とコミュニケーションの関わり等について概説する。 (⑥ /2回) コーチングの概論、スポーツコミュニケーションという観点からの学ぶ意義、学びの事例とコミュニケーションの関わり等について概説する。 (④ /2回) スポーツ情報・メディアの概論、スポーツコミュニケーションという観点からの学ぶ意義、学びの事例とコミュニケーションの関わり等について概説する。 (① 柴田 一浩/2回) スポーツ教育学の概論、スポーツコミュニケーションという観点からの学ぶ意義、学びの事例とコミュニケーションの関わり等について概説する。	オムニバス方式
	スポーツコミュニケーション実習 (アドベンチャープログラム)	学内に設置されたロープコース(安全が確保されたリスクを教材に、関わり合いや共同、葛藤などが起こるよう設計された施設)において、身体的・心理的にリスクのある活動の中で、五感を通して自己に気づき、他者との関わりを考えるプログラム。そこで自分自身への省察を高めることを学びながら、身体活動とコミュニケーションについて理解する。	
	グローバルスポーツ演習	地球規模(グローバル)の視野を持ちながら、身近な地域や組織(ローカル)の課題を題材に、社会、環境、政治、経済、科学、教育など、様々な分野に影響を与えるスポーツのチカラについて考える。講義やグループワーク、体験実習を通して、スポーツを多角的(in/for/through、する/みる/ささえる、ダイバーシティとユニバーサル、グローバルとローカル)にとらえ、多様化するスポーツの概念・機能・役割を理解することができる。	
	プレビジネスプログラム I	日通グループユニバーシティと連携し、「企業と大学が学び合う」をコンセプトに、企業人と大学生がインタラクティブに関わることで学びを促進する。ここでは、日通グループに所属する企業人をインストラクターとして、ビジネスマナーやビジネススキルについて、実践的ワークを通して学ぶ。企業人は大学生に「教える」ことで企業研修での学びを深め、大学生は現実的なモデルに触れるとともに、ビジネスにおける基礎的知識やスキルを理解することを目指す。	
外国語	Comprehensive English初級 I	英文の内容理解に必要な動詞、代名詞、疑問詞、過去・完了形等を含めた高等学校レベルの英文法、および英文音読に必要な単語の発音、アクセントの位置などの基礎的な知識の定着をはかり、英語と日本語の違いに注意を促しながら文法を中心とした解説を行うと共に正しい英文の読み書きができるようにする。英語の苦手意識を取り除く、単語の発音・アクセントの位置など英文音読に必要な基礎力を身につける、中学生レベルの単文で構成された文章を書ける、基本的な文法を理解することを到達目標とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目 外国語	Comprehensive English初級Ⅱ	英文の内容理解に必要な受身形、比較、不定詞、関係詞等を含めた基礎的な英文法、および英文音読に必要な文章内における単語の発音、アクセントの位置などの知識の定着をはかり、英語と日本語の構造の違いに注意を促しながら文法を中心とした解説を行うと共に正しい英文の読み書きができるようにする。英語の苦手意識を取り除く、単語の発音・アクセントの位置など英文音読に必要な能力を身につける、中学生レベルの単文で構成された文章を書ける、基本的な文法を理解することを到達目標とする。	
	Introduction to TOEIC I	TOEICは、英語によるコミュニケーション能力を検定する試験であり、今や多くの企業や団体が人材の評価基準として重視している資格試験である。本講義では、TOEIC Bridgeの受験を念頭に置いた授業を展開し、実用的な英語の運用能力を向上させ、TOEIC形式の問題をよく理解しながら、日常の世界だけでなく、ビジネスの世界でも「使える」英語を習得することを本講義のねらいとする。TOEICスコア400点以上を春学期の到達目標とする。	
	Introduction to TOEIC II	TOEICは、英語によるコミュニケーション能力を検定する試験であり、今や多くの企業や団体が人材の評価基準として重視している資格試験である。本講義では、Introduction to TOEIC Iに引き続き、TOEIC Bridgeの受験を念頭に置いた授業を展開し、実用的な英語の運用能力を向上させ、TOEIC形式の問題をよく理解しながら、日常の世界だけでなく、ビジネスの世界でも「使える」英語を習得することを本講義のねらいとする。TOEICスコア500点以上を春学期の到達目標とする。	
	English Communication初級Ⅰ	会話のテーマに必要な単語や表現を集中的に学び、それらをベースにした会話演習と積み重ねる。さらに、WritingやPresentationなどいくつかの方法で総合的な会話力を習得することを目指す。英語表現の音読や筆写をし、ペアワークでの会話練習を通して、英語での会話ができる力を養う。実際に相手と会話することで日常会話でよく使う平易な表現に慣れ、オーバーラッピングやシャドーイングを練習しながら英語の正しい発音やアクセントを身につける。	
	English Communication初級Ⅱ	春学期に引き続き、さらに高度な会話のテーマに必要な単語や表現を集中的に学び、それらをベースにした会話演習と積み重ねる。さらに、WritingやPresentationなどいくつかの方法で総合的な会話力を習得することを目指す。英語表現の音読や筆写をし、ペアワークでの会話練習を通して、英語での会話ができる力を養う。実際に相手と会話することで日常会話でよく使う平易な表現に慣れ、オーバーラッピングやシャドーイングを練習しながら英語の正しい発音やアクセントを身につける。	
	(外) 日本語AⅠ	各自の能力に応じて、基本的な日本語の実力をつけるとともに、大学生活に必要な日本社会における知識を身につける。また、自分の興味のある分野・専攻する分野について、まとまった内容の日本語でやりとりができるようになること、中上級に向けた読解や作文能力を養うことを目指す。学部の授業で用いられる日本語の資料などを、辞書を遣いながら読解することができる、説明文や論説文といったジャンルの文章を辞書を遣いながら理解することができることを到達目標とする。	
	(外) 日本語AⅡ	春学期に引き続き、各自の能力に応じて、基本的な日本語の実力をつけるとともに、大学生活に必要な日本社会における知識を身につける。また、自分の興味のある分野・専攻する分野について、まとまった内容の日本語でやりとりができるようになること、中上級に向けた読解や作文能力を養うことを目指す。学部の授業で用いられる日本語の資料を、適宜辞書を使いながら読解することができる、日本語の新聞などの説明文、論説文といったジャンルの文章を辞書を適宜使いながら読解することができることを到達目標とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必 修 科 目	外国語		
	(外) 日本語B I	各自の能力に応じて、基本的な日本語の実力をつけるとともに、大学生活に必要な日本社会における知識を身につけ、自分の興味のある分野・専攻する分野について、まとまった内容の日本語でやりとりができるようになること、中上級に向けた読解や作文能力を養うことを目指す。文章作成のために、目的に応じた文章表現の特徴を理解し、表現できる、一定のテーマに基づき、事実を意見の区別に注意しながら、基本的な構造を持つ日本語の文章を作成できるようになることを到達目標とする。	
	(外) 日本語B II	各自の能力に応じて、基本的な日本語の実力をつけるとともに、大学生活に必要な日本社会における知識を身につける。また、自分の興味のある分野・専攻する分野について、まとまった内容の日本語でやりとりができるようになること、中上級に向けた読解や作文能力を養うことを目指す。引用した情報や図表など、資料を用いて論理的、効果的なレポートが書けるようになること、自ら課題を設定し、調査・発表・レポート作成ができるようになることを到達目標とする。	
	(外) 日本語C I	各自の能力に応じて、基本的な日本語の実力をつけるとともに、大学生活に必要な日本社会における知識を身につける。また、自分の興味のある分野・専攻する分野について、まとまった内容の日本語でやりとりができるようになること、中上級に向けた読解や作文能力を養うことを目標とする。本講義では、数字、疑問文、こそあど、てfrom、形容詞、動詞の現在形・過去形などの文法について学習し、勧誘の表現、場所の表現や許可の表現などの日本語の表現力を身につける。	
選 択 必 修 科 目	キャリア科目		
	RKU入門	流通経済大学における初年次教育科目である。RKUWEEK期間中および春学期期間中に実施する学部プログラム、キャリアプログラムやプレゼミナールなどの様々なプログラムを通じて、本学の掲げる建学の理念・目的、教育方針を学習し、安心して大学生活をスタートできるような4年間を通しての学びを理解する。本学の掲げる建学の理念・目的ならびに教育方針を確認できる、4年間を通しての学びを理解できる、4年間の学業を全うできることを到達目標とする。	
	RKU実践	日常のボランティア活動に対して、その活動が所定の要件を満たす場合に単位を認定する。ボランティア精神を確立することができる、各自の専門性を高めることができる、チームワーク力やコミュニケーション能力を高めることができることを到達目標とする。対象となるボランティア活動は、国際交流、地域活動や福祉活動などの活動で、大学が認める無報酬の活動である。ただし、災害に関連するボランティア活動は除く。所定の実働時間を満たし、RKU実践活動報告書を作成・提出することにより、「RKU実践」1単位を認定する。	
キャリアデザイン	大学時代は学校生活から社会へ出る移行期である。高校までテストには必ずひとつの正解があったが、社会へ出ると正解は必ずしもひとつではなく、その正解も時と場合によって変化する。そうした社会で仕事をし、家庭を築き、質の高い人生を送るためには、何を学び、どのような進路設計をすべきであるか？講義では、自分自身を対象として、自分の好み・強み・こだわりなどを知り、自己の能力を活かして行くにはどうすれば良いかということについて考える。		

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	キャリアマネジメント	この講座は春学期の「キャリアデザイン」と対をなすものである。「キャリアデザイン」が自分自身を見つめ、考えたのに対し、「キャリアマネジメント」は自分を取り巻く外部環境に目を向け、働く場の仕組みや制度、企業などの組織についての知識、働くうえで必要な能力や情報などについて学ぶ。その上で、自分が置かれた状況や環境条件のもとで、自分自身の取り組み方やキャリアをどのようにマネジメントしていくかということについて考え、大学生生活の集大成ともいえるべき就職活動についても説明する。	
	キャリアカウンセリング	現代では設定したキャリアデザインを計画通りに実現させることは難しくなっており、社会の変化に柔軟に対応していくためには人生の節目でキャリアデザインを見直し、変化に沿った形に修正する必要がある。この講座では、キャリアカウンセリングの諸理論を概観したうえで、他者のキャリアデザインの実現をサポートすることを考える。他者へのアプローチによってキャリアについて更に深く理解すると共に、ワーク(毎回実施予定)を通してキャリアカウンセリング実践のための初歩的手法を身につけることを目的とする。	
	海外研修	交換留学・留学・異文化研修などの短期間から長期間の海外留学・研修を目的として、外国の大学またはこれに準ずる高等教育機関において学修した成果に対して、単位を認定する。海外留学・研修により、高度な専門知識を習得するとともに、高度な語学能力、コミュニケーション能力、異文化理解能力ならびに国際感覚を修得することを到達目標とする。大学所定の留学願、成績証明書、留学報告書等を提出し、大学が留学の成果を認めるときに、「海外研修」2単位を認定する。	
	(特) キャリア特講 (基礎)	21世紀を担う社会のリーダー養成の出発点となる講義であり、これからの日本および世界における社会的課題を対象として、本学のさまざまな学問分野からの視点を切り口に、幅広く学問的視野を拡大し、課題解決能力を習得し、確かな知識にたった発表、積極的な議論および優れたレポートの作成ができることを到達目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (51 山本 道也/1回) ※この1回は65高橋伸子と共同で実施 「はじめに」と題して、科目の趣旨を理解し、時事問題を例に課題提供・資料提示→輪読・討論→レポートの学修サイクルを学ぶ。 (65 高橋 伸子/3回) ※うち1回は51山本道也と共同で実施 「キャリアからみた21世紀の課題」と題して、ニート、派遣社員、男女格差などについて学ぶ。 (72 秋保 親成/3回) 「経済学からみた21世紀の課題」と題して、資源問題、格差、金融政策などについて学ぶ。 (44 宮平 真弥/3回) 「法学からみた21世紀の課題」と題して、憲法9条、個人情報、裁判員裁判制度などについて学ぶ。 (4 松田 哲/3回) 「社会学からみた21世紀の課題」と題して、テロ、ネット社会、難民問題などについて学ぶ。 (30 高田 富夫/3回) 「流通情報学からみた21世紀の課題」と題して、交通問題、災害時対応、ドローン宅配などについて学ぶ。	オムニバス方式
	(特) キャリア特講 (発展)	本講義は、社会へ出て働くために必要とされる重要な能力である「論理的思考力」と「文章力」を身につけ、磨きをかけることを目的としている。これらの能力は、仕事の第一線で活躍するために「英語力」と合わせ欠かせないものであり、自らが積極的に努力しない限り身につかない能力といえる。講義は、前半と後半の各7回ずつに分けて、それぞれ「論理的思考力」と「文章力」について実施する。毎回ワーク形式を中心に行う予定なので、諸君の意欲的な取り組みを期待する。	
(特) キャリア特講 (職業)	特別奨学生3年生の専用講座である。本講義では、企業人、公務員、教員、非営利法人、起業家など自分の目指す職業を明確にし、そのための必要な就職活動の準備をどのように行えば良いか、さらには就職活動のノウハウを学ぶことによって、就職活動への意欲を高め、早期の就職活動の準備と取り組みを行い、就職活動に活用することを旨とする。講義とワークを併用して、授業を進める。特別奨学生にふさわしい就職活動ができ、希望する企業、団体等に就職することを到達目標とする。		

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	(特) グローバルコミュニケーション (基礎)	本講は、英語によるコミュニケーションを中心とした講義である。二人一組またはグループで会話・議論することにより、英語の基本的なコミュニケーションスキルを身につける。また、テキストを通して、語彙力と文法力を修得し、同様に基本的なトーキングスキルとヒアリングスキルを修得する。このクラスは、日本語ではなく英語で授業を行う。英語による簡単な自己紹介ができる、英語で簡単な質問ができる、人やものを英語で説明・解説することができることを到達目標とする。	
	(特) グローバルコミュニケーション (発展)	本講は、英語によるコミュニケーションの講義であり、グローバルコミュニケーション (基礎) を発展させた講義である。二人一組またはグループで会話・議論することにより、英語の応用的なコミュニケーションスキルを身につける。また、テキストを通して、語彙力と文法力を修得し、同様に応用的なトーキングスキルとヒアリングスキルを修得する。このクラスは、日本語ではなく英語で授業を行う。英語による適切な自己紹介ができる、英語で複雑な質問ができる、人やものを英語で詳細に説明・解説することができることを到達目標とする。	
	災害ボランティア I	東日本大震災などの災害発生に関する災害ボランティア活動の参加者に対して、その活動が所定の要件を満たす場合に単位を認定する。災害の現状や実態を理解するとともに、ボランティア精神を確立し、チームワーク力やコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。災害ボランティア活動が45時間相当の場合は「災害ボランティア I」1単位を認定する。単位認定を行う場合は、「災害ボランティア活動届」、「ボランティア活動日誌」、「ボランティア活動証明書」等を作成・提出する。	
	災害ボランティア II	東日本大震災などの災害発生に関する災害ボランティア活動の参加者に対して、その活動が所定の要件を満たす場合に単位を認定する。災害の現状や実態を理解するとともに、ボランティア精神を確立し、チームワーク力やコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。災害ボランティア活動が90時間相当の場合は「災害ボランティア I」に加え、「災害ボランティア II」1単位を認定する。単位認定を行う場合は、「災害ボランティア活動届」、「ボランティア活動日誌」、「ボランティア活動証明書」等を作成・提出する。	
	日本通運寄付講座	日本通運による寄付講座である。日本通運は、本学の設立母体でもある世界的な総合物流事業者である。本講義では、日本通運のシンクタンクである日通総合研究所に所属するスタッフが、物流・ロジスティクスの基礎、ならびに最近の物流・ロジスティクスの動向についてビジュアルに講義する。物流企業の新入社員と同程度の基礎知識を習得する、物流・ロジスティクスに関して第三者に説明できる、物流、ロジスティクスの果たす社会的役割を説明できることを到達目標とする。	
	野村証券寄付講座	本講義は、野村証券による寄付講座である。経済情報の捉え方、債権市場の役割と投資、株式市場の役割と投資、投資信託の役割と仕組み、グローバル化した資本市場・金融資本市場、外国為替相場とその変動、証券投資のリスク・リターン、ポートフォリオ・マネジメント、資本市場における投資家心理など投資全般について学習する。資本市場に求められる役割を理解するとともに、基本的な証券知識を習得し、受講生それぞれのライフプランに沿った運用方法を選択出来るようになることを到達目標とする。	
	全国通運連盟寄付講座	本講座は、公益社団法人全国通運連盟の寄付によるものである。講義は、全国通運連盟、J R貨物、日本通運株式会社等の通運事業者、荷主企業など多彩な顔ぶれの講師陣が担当する。鉄道貨物輸送と通運は、我が国の経済発展と国民生活向上にこれまで多大な貢献を果たしてきた。そして今日、環境問題に対する意識が高まる中で、環境負荷の少ない輸送機関としての役割拡大を求められている。鉄道貨物輸送のこうした特性を理解してもらうための講義である。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目	キャリア科目		
	ダイレクトマーケティング実践講座	本講座は日本通信販売協会が後援する講義である。近年、通信販売、ネット販売といったダイレクト・マーケティングの市場が大きく拡大している。このような現状は、小売業における店舗型から無店舗型への変化というだけでなく、メーカー、卸、小売、物流企業による流通システム全体に大きな影響をもたらしつつある。本講座は、通販業界の実務家を招き、各企業が進める実際の動向を中心に講義を実施する。ダイレクト・マーケティングの基本的な仕組みを理解し、知識を身に付けることを到達目標とする。	
	インターンシップ基礎	本講義では、インターンシップを実施するにあたり、インターンシップの目的や意義を検討し、事前に身につけておくべきマナー、一般常識や知識を学習する。さらに、社会で働くことの意味を理解し、必要な態度・心構え・マナーを身につけた上で、インターンシップの目的意識を形成する。社会に必要な意欲・姿勢・コミュニケーション能力・情報収集力・問題発見力・計画実行力を理解し実践する、自分のキャリア形成を考える、インターンシップ実施に必要な知識とマナーを身につけることを到達目標とする。	
	インターンシップ	本講義では、インターンシップに参加し、その経験をもとに「グループワーク（進路について考える）」「シェアリング（参加して思っていることを共有する）」「業界・企業研究（参加した上で、業界・企業への理解を深める、他の業界・企業を調べる）」を行い、今後の就職活動のための知識・スキルを確立する。社会に必要な意欲・姿勢・コミュニケーション能力・情報収集力・問題発見力・計画実行力を理解し実践する、自分のキャリア形成を考える、インターンシップの経験を就職活動に結びつけることを到達目標とする。	
	インターンシップ（海外）	海外における企業への勤務を体験するインターンシップに参加し、修了した者に対して、その活動が所定の要件を満たす場合に単位を認定する。海外企業における就業体験という自発的な国際的・実践的経験をするにより、大学で習得した専門知識や語学能力を実践的に活用するとともに、更なる国際的・実践的な知識、スキル、語学能力を習得し、勉学意欲の向上を図ることを到達目標とする。所定の申請書、報告書等を提出することにより、「インターンシップ（海外）」2単位を認定する。	
	キャリア基礎（数理）	この講義では、入社選考において現在広く用いられている総合適性検査であるSPIにおける非言語系の授業を行う。本講を通じ、SPIで求められる数理的処理能力を身につけることを目的とする。具体的には、毎回指定された範囲を予習し、その成果をWEBテストで確認する。授業ではWEBテストの解説や各テーマのポイントを説明をした上で、確認テストを行う。受講者は必ず予習をしてから授業に臨むこと。SPIについて学び、出題される問題パターンを把握し、解けるようにすることを到達目標とする。	
	キャリア基礎（言語）	この講義では、入社選考において現在広く用いられている総合適性検査であるSPIにおける言語系の基礎授業を行う。SPI試験で求められる言語処理能力のうち、文章の読解や記述の基礎となる言語能力を身に付けることを目的とする。毎回、プリントにより問題演習と細かい内容説明による講評を行い、さらに語句や習慣にまつわる短い講義により、言語に対する基礎知識を習得する。日本語に幅広く接することにより社会人としての言語能力を習得し、文字によるコミュニケーション能力を習得することを到達目標とする。	
キャリア発展（数理）	この講義では、入社選考において現在広く用いられている総合適性検査であるSPIにおける非言語系の授業を行う。1年次配当科目として学んだ「キャリア基礎(数理)」での研鑽を土台として、本講では更なる応用演習を通じ、SPI（非言語分野）で求められる数理的処理能力を養うべく、学習を進める。まず基礎で扱わなかった分野について学習し、その後答練を繰り返し行う。SPI受験者の上位1～2割に入り、大手企業の選考を突破することを到達目標とする。		

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
キャリア 科目	キャリア発展 (言語)	この講義では、入社選考において現在広く用いられている総合適性検査であるSPIにおける言語系の基礎授業を行う。SPI試験の文章問題に対応できることを目指す。毎回、プリントによる文章読解の基礎演習と講義の後に、300字程度の文章作成を行い、自分の言葉で考え、自分の言葉で表現できる能力をみがいてゆく。作成した文章は、次回の講義の時に講評を添えて返却し、文章力向上の資料とする。文章読解力の基礎を身につけ、あわせて文章作成能力の基礎を向上させることを到達目標とする。	
	職業選択論	3年生の学年末(3月1日)から多くの企業で公式に採用に向けた活動が始まる。そのため、3年生の一年間が、就職活動に向けて事前準備を行う重要な時期となる。初めての職業選択に向けて、働くための知識を身につけ、しっかりと準備を行い、行動への意識を高めることが大切である。人生のキャリア形成に大きな影響を与える職業選択について、企業組織で働くことを視野に入れて、「働くフィールド」「仕事に就く」「組織で働く」という3つのテーマからアプローチをして行く。授業では随時ワークも行う。	
選択必修 科目	教養基礎科目  哲学 I	教養基礎としての哲学入門講座である。哲学とは本来、よりよく生きるための知恵を愛し求める「行為」であり、既成知識としての「教科」ではないと考える。哲学的思考とは、表面的な思い込みや思惑にとらわれず、先入見や偏見を排し、絶えず疑問を発して根本的に問題を見すえ、問題意識を深めていく知的営為である。そのようなマインドゲームとしての思考実験を行いながら、哲学的な批判的思考とは何かを考えていく。自発的かつ自覚的な批判的思考力を育み、思考にオリジナリティが持つことができることを到達目標とする。	
	哲学 II	春学期に引き続き、哲学的思考を深める。現代ならではの問題を掘り起し、それらを徹底的に問いただしながら、批判的に現状をみすえ、問題意識を深める。批判的思考とは、世間の常識や物事をナイーブに信じるポジティブ・シンキングに対抗するアンチテーゼとして、ある種のネガティブ・シンキングといえるかもしれない。しかし、これは思考停止を防ぐことにつながる。哲学では早急な結論よりも問いそのものが重要であり、思考のプロセスこそが大切である。激動の現代社会において、そのような哲学的思考の意味とは何かも考えていく。	
	教養基礎科目  教育学 I	一般教養科目であるため、教員を目指す目指さないに関わらず日本人として必要な「教養」としての教育学を意識して講義を行う。講義では、大人と子ども、東洋と西洋、資本主義と民主主義などを中心に解説する。教育という現象について反省的な考察を加えるための基本的な知識を身につける、教育という現象について自らの立場に応じた判断を行うことができるようになる、市民として教育に対する適切な選択行動が行えるようになることを到達目標とする。	
	教養基礎科目  教育学 II	一般教養科目であるため、教員を目指す目指さないに関わらず日本人として必要な「教養」としての教育学を意識して講義を行う。講義では、ナショナリズムと教育、戦後教育、ゆとり教育、教育における競争などを中心に解説する。教育という現象について反省的な考察を加えるための基本的な知識を身につける、教育という現象について自らの立場に応じた判断を行うことができるようになる、市民として教育に対する適切な選択行動が行えるようになることを到達目標とする。	
	心理学 I	心理学とは読んで字のごとく心(こころ)の理(ことわり)を学ぶことである。しかし心は眼に見えない。この眼に見えない心を科学的に究明することが心理学に課せられた課題である。本講義では、心理学の先人たちが明らかにしてきた心に関する法則や理論の紹介を通じて、心についての科学的理解を深めることを目的とする。「心理学 I」では、知覚、学習、認知、生理、動機づけと情動など心理学の基礎的な側面を扱う。授業では実験や調査を複数回実施し、実際の心理学を体験してもらうことで、心理学への理解を深める。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目 教養基礎科目	心理学Ⅱ	心理学とは読んで字のごとく心（こころ）の理（ことわり）を学ぶことである。しかし心は眼に見えない。この眼に見えない心を科学的に究明することが心理学に課せられた課題だといえる。本講義では、心理学の先人たちが明らかにしてきた心に関する法則や理論の紹介を通じて、心についての科学的理解を深めることを目的とする。「心理学Ⅱ」では、性格、発達、社会、臨床、経済、犯罪など心理学の応用的な側面を扱う。授業では実験や調査を複数回実施し、実際の心理学を体験してもらうことで、心理学への理解を深める。	
	宗教学Ⅰ	近代社会は欧米勢力によって築かれた面が大きい。欧米社会の深層にはユダヤ・キリスト教的な考え方が根づいていると言われる。宗教学Ⅰでは、ユダヤ・キリスト教を一つの流れとして、その歴史および欧米社会と世界に対して与えた影響について見ていく。なお、イスラム学Ⅰ・Ⅱでは、同じ一神教としてユダヤ・キリスト教と伝統を同じくするイスラムについて扱っている。関心のある学生は、合わせて履修するとよい。ユダヤ・キリスト教に関する歴史の流れを把握し、聖書およびキリスト教の基本思想を理解することを到達目標とする。	
	宗教学Ⅱ	宗教学Ⅱでは、日本を含むアジアの宗教をとりあげる。その際、約2500年前にインドに成立した仏教を起点として話を始め、仏教の広がりについて述べていく。以上を通じて、日本人（あるいは東アジア人）の主要な宗教伝統である仏教を中心に、儒教・道教ほかのさまざまな宗教伝統に触れ、自分たちの宗教的・文化的なルーツを確認する。仏教を中心としたアジアの諸宗教の伝統について把握し、日本の伝統的な宗教の特徴について理解することを到達目標とする。	
	言語論Ⅰ	英語を歴史的観点から解説を行う。英語が生まれる前の大陸時代に始まり、英語の誕生、ヴァイキングの襲来、ノルマン人による英国征服を経て、英語がどのようにその姿を変えてきたかを辿る。それぞれの地域で話された様々な英語の中から標準語が生まれてくる中世末期から近代初期までの英語を辿る。特に標準語が生まれてくる政治的背景を歴史的に辿りながら、英語の外面的な変遷を見ていく。英語のルーツはどこにあるのか、そしてそれがどのように姿を変えてきたのか、今どんな姿をしているかを理解できることを到達目標とする。	
	言語論Ⅱ	一般に近代英語とよばれる15世紀から20世紀まで英語の変遷を辿る。近代英語の代表としてシェークスピアの英語と聖書の英語をとりあげ、それぞれの英語がどのような姿をしていたかを概観し、現在の英語へどのように発展を遂げたかを見てゆく。後半では、特定のテーマ（英国の方言、英国の地名と人名）から英語の現在の姿を辿る。イギリスでの話し言葉にどのような違いがあるのか、英語の語彙にどのような歴史の足跡が記されているのか、均一ではないイギリス英語の姿を理解できることを到達目標とする。	
	現代文章論Ⅰ	本講座では、「言葉の力」を向上させ、「よい文章」を書くことを目指す。言葉の力をつけるためには、書く・読む・発表するの三者がかみ合わなくてはならない。その訓練も随時おこなう。文を書く行為は「他者」がいなくては成り立たない。他者に負担をかけること、これが「よい文章」の基本である。負担をかけないとは、どのようなことだろうか。それは、道筋が通っていて理解しやすく、見て読みやすく、読んで心地よい、つまり、読んでもすぐ分かるということである。そのためには、「言葉の力」が不可欠である。	
	現代文章論Ⅱ	春学期と同じく「よい文章」を書くことを目指す。よい文章の基本が、わかりやすい・主張があることにあり、それは、すなわち「他者への気遣い」であることを念頭において、文章の技術と言葉の感覚の向上をはかる。秋学期は、とくに、実践的な文章の作成とそれに必要な言葉の用法を中心に講義を進める。具体的には、公式文書作成と私的文書（手紙やはがき）作成を中心に行なう。文を書くことが内面の成熟につながる大切な行為であることを忘れずに、文を書く楽しさも、あわせて知ってほしいと思う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目 教養基礎科目	イスラム学Ⅰ	現代の国際社会を理解するうえで、イスラムに関する正確な知識は欠かせないが、「イスラム」という宗教は日本人にとって身近な宗教とは言いがたい。まずは、その歴史・社会・文化に関する背景を知ることが重要である。本講義では、イスラム発生以来の歴史をたどりながら、イスラム独自のしくみがどのようなプロセスを経て生まれたのかを見ていくことにする。イスラム学Ⅰでは、イスラム以前の中東史を含め、7世紀のイスラム誕生から18世紀(近代はじめ)に至るイスラム繁栄の歴史をたどる。	
	イスラム学Ⅱ	現代の国際社会を理解するうえで、イスラムに関する正確な知識は欠かせないが、「イスラム」という宗教は日本人にとって身近な宗教とは言いがたい。まずは、イスラムの歴史・社会・文化に関する背景を知ることが重要である。本講義では、イスラム発生以来の歴史をたどりながら、イスラム独自のしくみがどのようなプロセスを経て生まれたのかを見ていくことにする。イスラム学Ⅱでは、19世紀から現代に至るイスラムの凋落と復権の歴史をたどる。	
	(外) 日本語表現法	本講座では、アカデミックジャパニーズのレベルにおける文字・音声の表現能力をつけるとともに、日本において社会人として必要な論理的談話・文章の表現能力を育成することを目的とする。具体的には、レポートの形式や当該ジャンルに適切な日本語表現について、さらにはビジネスの場面で求められる音声での説明や意見の発信、文書作成などに必要な日本語について取り上げ、受講者はそれらの課題に対して取り組むことで、上級の日本語能力をつけていく。	
	社会学Ⅰ	社会科学と自然科学の類似点と相違点を明らかにし、科学とは何かを考察し、社会科学における社会学の位置・独自性について論じる。ついで、社会学の成立を社会的・歴史的背景と関係づけて検討し、社会学の第一世代の研究者の考え方を紹介し、社会学の第二世代とK. マルクスの考え方を出発点としてそれ以降の社会学の展開を検討する。こうしたプロセスを経て社会学という学問の特徴と基本的な考え方を理解できるようにする。そして、社会学の基礎的な概念である社会的行為、集団・組織、社会構造、社会変動、文化について述べる。	
	社会学Ⅱ	日本社会が現在どういう段階にあり、どのような課題があるのかについて考察する。ついで、就職(採用)、職業生活、医療、家族、人間関係などの現状と課題について資料を用いながら述べる。社会現象はさまざまな考え方、概念や理念をもとに構成されている。そうした現象をより具体的に検討する。また、社会変動にともなってさまざまな生活上の問題が発生してきていることを理解する。社会学的な研究を通して、日本社会に対する認識を深めるとともに、社会学的な分析の仕方、捉え方を習得することを目的とする。	
	経済学Ⅰ	私たちは、商品やサービスを市場で取引し、社会全体で分業し、物質的に豊かな生活をしている。ミクロ経済学では、消費者や生産者が自らの利益や満足感を高めるために行う意思決定や、市場の機能や役割を分析する。特に、需要曲線や供給曲線を使って、競争的な市場をもたらす資源配分が望ましいこと、また対照的に、独占や公害をもたらす産業については政府の規制が社会的利益をもたらし得ることを理解する。複雑な現象を簡略化した経済モデルを用い、グラフや簡単な計算を通して、基礎的な概念の使い方を学ぶ。	
	経済学Ⅱ	GDPや物価上昇率などの集計量に関する統計で、国全体の経済などを分析するマクロ経済学を学ぶ。投資や消費の決定要因や、利率や国民所得の水準を決定する理論などを学習すると、様々な経済の諸変数は相互に依存していることに気づく。したがって、経済について体系的な理解を持つことが、現実の経済を学ぶための近道である。これらの相互依存関係を理解し、政策の効果などをグラフ等で分析できることが主要な目標である。日本経済のデータと理論との間の整合性を重視したテキストを用い、日本経済の現状について理解を深める。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目 教養基礎科目	法学Ⅰ	法学を学ぶうえで最低限必要と思われる基本的な用語や事柄を説明するとともに、社会に生起する法律問題を幾つか例に挙げながらリーガルマインドを養うようにする。はじめに、法律には、憲法、刑法、民法、会社法等様々なものがあるので、法の全体像をみる。特に、裁判、経済生活、家族、高度技術と方途の関わりについて、理解を深めるようにする。さらに、日常生活の中で、法律がどのような役割をはたしているのかを概観していく。	
	法学Ⅱ	本講義では、裁判所、弁護士、社会福祉等の役割を通じて法における人権について学習する。相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、行政法の理解を含む）との関わりについて理解を深める事を旨とする。相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む）について理解し、成年後見制度の実際について理解を深め、社会的排除や虐待等の権利侵害や認知症等の日常生活上の支援が必要な人達に対する権利擁護活動の実際について理解することを目標とする。	
	人文地理学Ⅰ	この講義では、人文地理学が扱うテーマのなかでも主として「人口および都市・居住問題」の概略について理解することを目標とする。わたしたちが暮らす生活環境は、ローカルな社会関係のみで成立しているのではなく、ナショナル、リージョナル、グローバルといったより大きな空間スケールにおける諸活動と関係を結びながら、近代から現代へと至る時間的経過のなかで展開してきた。こうした前提を踏まえ、多様な属性を持つ人々が社会的に構築された環境をいかに認識し、それに基づいて行動・居住しているのかについて理論的に考察する。	
	人文地理学Ⅱ	現代の日常生活が営まれる舞台となる空間の成り立ちとその特徴について知っておくことは、自らの生活環境の諸問題を把握し主体的に考えていく際に不可欠である。この講義では、現代日本の身近な現象を中心に上げながら、人文地理学が扱うテーマのなかでも「生活文化」の概略について理解することを目標とする。人文地理学ならびにその近接分野で蓄積されてきた知見をもとに、余暇活動に関わる具体的なテーマを通じて、「生活文化」の変容について考えていく。	
	日本文化論Ⅰ	本講義では、世界に通用する日本、日本人の心にあるもの、文化とは、和歌の存在、キーワード「なさけ」、宮中と武家の相克、源義経、空海の凄さ、源氏物語とはなにか、ユニークな革命「明治維新」、織田信長の評価、千利休とは何者かなどを通じて日本文化を解説し、世界に通用する日本文化を人物と事柄で掘り下げていく。受験教科書の知識ではなく内容をその意味から理解し身に付け、世界に通用する日本文化を理解し、世界に通用する人間になることが目的である。	
	日本文化論Ⅱ	本講義では、浮世絵の新しい世界、世阿弥の世界、明治維新の凄さ、西行の苦悩、太平記という歴史観、歌舞伎ワールド、近松の業績、ユニークな忠臣蔵、なさけと和歌と政治体制、世界の舞台での日本文化、世界に通用する日本人などを通じて日本文化を解説し、世界に通用する日本文化を人物と事柄で掘り下げていく。受験教科書の知識ではなく内容をその意味から理解し身に付け、世界に通用する日本文化を理解し、世界に通用する人間になることが目的である。	
	外国文化論（アジア）Ⅰ	グローバル化の進む昨今、特にアジアにおける異文化の理解の重要性はますます高まっている。本講義では、食文化、服装文化、建築物、金属文化、ゲーム・スポーツ、陶磁器、文字など、歴史的にも日本と関係の深い中国の伝統文化を学ぶことで、異文化への理解を深める一歩へとしてもらいたいと考える。中国を中心とする東アジアの伝統文化を学ぶことで、異文化理解を深めるとともに、東アジアの中の日本文化を意識できることを到達目標とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 必 修 科 目  教 養 基 礎 科 目	外国文化論 (アジア) II	グローバル化の進む昨今、特にアジアにおける異文化の理解の重要性はますます高まっている。本講義では、儒教・仏教・道教などの宗教、風水思想、歌文化、神話、民間説話など、歴史的にも日本と関係の深い中国を中心とした伝統文化を学ぶことで、異文化への理解を深める一歩へとしてもらいたいと考える。中国を中心とする東アジアの伝統文化を学ぶことで、異文化理解を深めるとともに、東アジアの中の日本文化を意識できることを到達目標とする。	
	外国文化論 (西欧) I	外国の文化を学ぶことは、世界に視野を広げるだけでなく、自分の国を振り返ることができるという点でも重要である。この講義ではヨーロッパ、特に日本の近代化に大きな影響をもたらしたイギリスの歴史と王室・貴族、言語、教育、スポーツなどの文化を中心に知識を深める。イギリスは英語が生まれた国でもあり、世界中で使われるようになった背景を知ることが、英語を学ぶ上でとても有益である。他の英語圏の国々や周囲の国々、そして日本との関係にもふれながら話を進めていく。	
	外国文化論 (西欧) II	外国の文化を学ぶことは、世界に視野を広げるだけでなく、自分の国を振り返ることができるという点でも重要である。この講義ではヨーロッパ、特に日本の近代化に大きな影響をもたらしたイギリスの文化である技術、文学、美術、演劇などを中心に知識を深める。イギリスは英語が生まれた国でもあり、世界中で使われるようになった背景を知ることが、英語を学ぶ上でとても有益である。他の英語圏の国々や周囲の国々、そして日本との関係にもふれながら話を進めていく。	
	現代女性論 I	現代の日本の女性のおかれている状況を、さまざまな側面から検討する。身近なテーマについて、日頃感じることと信頼できるデータをもとに自分なりの考えをもち、考え方に柔軟性を持ってほしい。本講義では、現在女性の観点から、ライフサイクルの変化、家事の変化、サラリーマンの妻の増加、性別役割分業観、夫婦同姓の原則、夫婦観、子ども観、学校教員の構造、女性管理職、評価の二重基準、かくれたカリキュラム、および共学と別学などについて解説を行う。	
	現代女性論 II	これからの女性の生き方と社会とのかかわりを中心に、特に経済的自立の重要性からみた職業を持つことの意義を考えてほしい。常識にとらわれないことが必要である。本講義では、現在女性の観点から、職業をもつことの意味、働く女性の現状、女性の労働に対する評価、女性集中職、コンパラブル・ワースという考え方、雇用機会均等法、非正規労働、マス・メディアの現状、テレビ・コマーシャル、メディア・リテラシー、政治の現状、女性議員が多いと何が変わるかなどについて解説する。	
	社会倫理学 I	社会倫理学とは社会における人間関係ならびに人と社会との関係についての原理や規範のための可能性の条件を探る学問である。折りしも「ハーバード白熱教室」で知られる政治哲学者マイケル・サンデルの正義論、さらに同大学の先人ジョン・ロールズの正義論も話題になっている。社会倫理とはまさにこのような社会正義の問題について考えることでもある。本講では、現代社会の状況や「社会通念」という一般意識や常識のあり方を批判的に検証するとともに、現代社会の様々な倫理的問題について、「公共性」に重点を置いて考えていく。	
	社会倫理学 II	社会倫理学とは社会における人間関係ならびに人と社会との関係についての原理や規範のための可能性の条件を探る学問である。社会倫理学とは社会正義や社会的公正に関する理論と言われているが、同時に現代は倫理なき時代とも呼ばれている。しかし、まさにそれゆえに倫理に関する考察と、新たな倫理の構築が急務の課題として求められている。そのためには、現代社会の倫理的状況をより正確に分析し、把握する必要がある。秋学期はより具体的に幅広く現代社会の倫理的諸問題について、実践的に考察していく。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目 教養基礎科目	(外) 日本事情	(外) 日本事情は留学生を対象とする科目である。この授業では、日本の生活と文化を総合的に学ぶ。日本文学作品から現在の新聞まで多種類の文をよみ、日本語の読解力をみがいていく。より直接的には、大学における専門的研究、あるいは帰国後に日本との交流をする際に役立つ基礎知識を学び、日本の社会生活における多様性を学ぶ。留学生が、日本の社会や文化、あるいは生活習慣などを理解し、自分自身の今の生活に役立つとともに、将来にも役立つことを講義の目標とする。	
	数学 I	世の中のさまざまな運動や現象の変化や規則性などを記述し、分類、解析する言葉を提供しているのが数学であり、経済、金融や社会科学などさまざまな分野で数学が用いられ活用されている。本講義では、“数を扱う”として、社会生活において活用するであろう最も基礎的な数についての事柄を学修する。さらに、数の間の関係、関数について関数の性質やグラフを用いて“関数を扱う”ことを学修する。具体的には教科書の例題を用いて、世の中で必要とされている数学的な考え方、整理の方法の基礎としての数学をやさしく学修する。	
	数学 II	世の中のさまざまな運動や現象の変化や規則性などを記述し、分類、解析する言葉を提供しているのが数学であり、経済、金融や社会科学などさまざまな分野で数学が用いられ活用されている。本講義では『数学 I』に引き続き、社会生活において活用するであろう最も基礎的な数学についての事柄を学修する。具体的には、“ベクトルと行列”、“微分・積分”、“データの分析”について教科書の例題を用いて、世の中で必要とされている数学的な考え方、整理の方法の基礎としてやさしく学修する。	
	地球科学 I	日本列島およびその周辺地域の生い立ちについて学習する。地球の形、地形図、地形と地質、化石と地質時代、沖積平野、気候システムと気候変化、氷河、生物相の変遷、生物の歴史や人類の歴史等を通じて、われわれが生活している関東平野を題材に地球科学的なものの見方考え方になれ、日本列島、全地球規模の歴史を紹介する。自然科学的なものの見方が出来る、地球の環境変化が理解できる、地球の歴史を理解できることを到達目標とする。	
	地球科学 II	日本列島では毎年のように火山が噴火し地震が発生している。時には大きな被害をもたらすこともある。本講義では、地震断層、活断層、歴史地震、プレートテクトニクス、世界と日本の火山、プレートと火山などの学習を通じて、日本列島における火山活動や地震の実態を学習する。地震や火山噴火のメカニズムを理解できる、プレートテクトニクスの概要を理解できる、地球の構造を理解できる、天体としての地球を理解できることを到達目標とする。	
	生態学 I	生態学は植物と動物、およびそれらが生活している環境との間の関係を扱う学問であり、対象の空間的、時間的変化に関心を払い、その中の法則性とその例外に注目する。種々の生物の研究を通して得られた生態学的法則は、人間の地球における立場と、未来の可能性について多くの事を示唆している。本講義では、生態学の領域、地球上の生物・植物・動物とその役割、生物と無機物的・有機的環境、人間と環境について学習し、生態学的視点の形成し、他の生物と人間との生態学的共通点、相違点を理解することを目標とする。	
	生態学 II	生態学は植物と動物、およびそれらが生活している環境との間の関係を扱う学問であり、対象の空間的、時間的変化に関心を払い、その中の法則性とその例外に注目する。種々の生物の研究を通して得られた生態学的法則は、人間の地球における立場と、未来の可能性について多くの事を示唆している。本講義では、個体群の増殖、群集・食物網・生物の多様性、生態系の機能と構造としてのエネルギー流、物質循環について学習し、生態系を理解し、他の生物と人間との生態学的共通点、相違点を理解することを目標とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目 教養基礎科目	生命科学 I	生物学は、現在、医学、農学、化学などとドッキングして「生命科学」という新しい分野を発展させてきた。食糧の増産や医療の進歩にこの分野の果たす役割は大きく、その成果は私達の日常生活の中に広く取り入れられる様になってきている。本講義では、生命科学の領域、細胞、DNAの構造と機能、光合成とバイオマスなど、広く生命科学一般を学び、それと私達との関わり、現時点での知識の到達点、限界について説明する。生物学に関するキーワードを理解し、他の人に説明できることを目的に講義を受講すること。	
	生命科学 II	生物学は、現在、医学、農学、化学などとドッキングして「生命科学」という新しい分野を発展させてきた。食糧の増産や医療の進歩にこの分野の果たす役割は大きく、その成果は私達の日常生活の中に広く取り入れられる様になってきている。本講義では、老化と寿命、遺伝子、遺伝子組み換え、細胞融合、生体防御、免疫など、広く生命科学一般を学び、それと私達との関わり、現時点での知識の到達点、限界について説明する。生物学に関するキーワードを理解し、他の人に説明できることを目的とする。	
	自然地理学 I	本講義では、地球内部からの力によってできる地球表層のかたちや変動をあつかい、地球規模の海陸の形成や分布をプレートテクトニクスの観点から考えていく。火山・地震とプレートテクトニクス、火山災害をとりあげ、ビデオやスライド(写真)を用いて風景を紹介していく。グローバルな現象と身近な現象とをむすぶ視点を養うことで、地球表層の自然を構成するもの、地球表層の自然現象とその発生メカニズム、内作用から地球表層の変動を説明できることを到達目標とする。	
	自然地理学 II	本講義では、地球外部からの力によってできる地球表層のかたちや変動をあつかい、大気圏と地圏(表層)の接点に焦点をあてる。とくに力点をおくのは、寒冷地域、乾燥地域、熱帯などの地形と気候であり、ビデオやスライド(写真)を用いていくつかの気候帯の風景や地形を紹介する。地球表層の自然を構成するものや自然の成り立ち、地球表層の自然現象とその発生メカニズム、外作用からの地球表層の変動を説明できることを到達目標とする。	
	文学(日本文学) I	本講座は、日本の詩歌や小説をとりあげ、言葉や表現や形式の美しさと、作品そのものから伝わってくる「人の思い」について考えたい。とくに、感情表現があまり上手ではないといわれてきた日本人が、「愛する人への思い」をどのように表現してきたのかについて、作品を読みながら考えたい。具体的には、短歌、俳句、詩、小説などの現代の作品を中心に読むが、古典の和歌や物語も参考に使いながら理解を深めていく。さらに、作品を深く味わう手だてとして、自分で実際に短歌を創作してもらおう。	
	文学(日本文学) II	良い「文学」作品は、時代やジャンルを越えて、人の心を豊かにし、心を解放する力を持っているものである。本講座では、古典の物語作品や西欧の影響を受けて執筆された近代文学をとりあげて、「人の思い」とくに「人を愛すること」について考える。感情表現があまり上手ではないといわれてきた日本人が、「愛する人への思い」をどのように表現してきたのかについて、作品を読みながら考えたい。映像を取り入れ、言葉と映像の表現の違いにも触れる。	
	歴史学入門(日本史) I	この講義は、大学に入学するまでに学んだ日本史に関する知識や理解を再確認し、自ら歴史を学び・考える姿勢を身につけることを目的とする。春学期は、日本史の各時代像を把握した上で、歴史学という学問について伝える。高等学校で日本史を履修しなかった人、履修しても十分な学習時間を割けなかった人などを受講の対象とし、歴史学としての日本史を学んでいく。各項目ごとにレジュメを配布し、レジュメを参照して講義を聞き、記載されている「史料」を読む。毎回、講義が終了時に授業内容に関する小テストを実施する。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択必修科目 教養基礎科目	歴史学入門（日本史）Ⅱ	この講義は、これまでに学んだ日本史に関する知識や理解を再確認し、自ら歴史を学び・考える姿勢を身につけることを目的とする。秋学期は、近世から近代へ移り変わる日本の歴史について伝える。高等学校で日本史を履修しなかった人、履修しても十分な学習時間を割けなかった人などを受講の対象とし、私たちが生きる近(現)代日本の原風景について学んでいく。各項目ごとにレジュメを配布し、レジュメを参照して講義を聞き、記載されている「史料」を読む。毎回、講義が終了時に授業内容に関する小テストを実施する。	
	歴史学入門（東洋史）Ⅰ	この講義は、中国を中心としたアジアの歴史が日本社会の形成とどう関わったか、アジアの歴史の理解が日本を含む世界の未来創造にどういう意味を持つか等を考えるため、基礎知識獲得を、第1目的とする。その過程で「歴史は暗記物」といった受験勉強レベルで生まれがちな誤解を改めて貰うことを、第2目的とする。各時代の政治・法制・軍事外交的変化を重点的に見て、中国及び周辺の人々の歴史を考え、アジア史に関する基本的知識の習得を目指す。	
	歴史学入門（東洋史）Ⅱ	この講義では、中国史の社会経済史と文化史を扱い、「環境史」という比較的なじみの薄い概念も併せて導入する。従来の歴史学でも検討されてきた諸問題を「人類史が環境から受けた影響」と「自然環境に人類が及ぼした影響」という角度から再検討する試みである。中国の長い歴史からは、古代帝国の経済的発展の背景に、他地域と異なる環境保全の知恵が早熟した側面と、その実行に苦闘した跡とを読み取れる点で、今日の環境問題解決の智恵を汲み取ることも可能である。そのような意識をもって、歴史を見る目を養うことを目的とする。	
	歴史学入門（西洋史）Ⅰ	本講義は、政治史を中心として近世までのヨーロッパ史を、さまざまな文化的様相も加味しながら概観する。前半では、古代オリエントから古代ギリシャをへて、古代ローマに至るの古代ヨーロッパ史を解説する。後半では、ゲルマン民族の大移動から始まる中世ヨーロッパからルネサンス時代をへて、大航海時代に代表される近世ヨーロッパに至る時代を解説する。ヨーロッパ史の基本的な知識、政治史、文化史を理解しながら、現在や未来についての見識や洞察力を養うことを到達目標とする。	
	歴史学入門（西洋史）Ⅱ	本講義では、政治史を中心として現代までのヨーロッパ史を、さまざまな文化的様相も加味しながら概観する。前半では、ドイツの宗教改革、フランスの絶対王政、近世国家イギリスなどフランス革命までの近世ヨーロッパ史を解説する。後半では、ウィーン体制とその崩壊、帝国主義と植民地、第一次大戦とロシア革命、ファシズムと第二次大戦、冷戦後から現代までの産業革命以降の現代ヨーロッパ史を解説する。ヨーロッパ史の基本的な知識、政治史、文化史を理解しながら、現在や未来についての見識や洞察力を養うことを到達目標とする。	
	民俗学Ⅰ	一年の間に行われる伝統的な年中行事を中心に、民俗学の基礎と全国各地の多様な文化を学ぶ。対象地域は主として日本・中国を中心とする東アジアである。民俗学の定義、日本民俗学の形成と発展、暦の歴史、年越しと正月、桃・端午の節句、樹木信仰、七夕、盆、新嘗祭、霜月神楽などについて学習する。当たり前と思っていた自分の身の回りの生活文化を見つめ直し、また世界には様々な風俗習慣や価値観があることを知ることを目標とする。	
	民俗学Ⅱ	人が一生の間に経験する伝統的な通過儀礼を中心に、民俗学の基礎と全国各地の多様な文化を学ぶ。対象地域は主として日本・中国を中心とする東アジアである。日本文化の源流、中国の民族構成、東アジアのシャーマニズム、成人儀式、恋愛と歌垣、婚礼儀式、出産儀式、葬送儀式や大嘗祭などについて学習する。当たり前と思っていた自分の身の回りの生活文化を見つめ直し、また世界には様々な風俗習慣や価値観があることを知ることを目標とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 基礎 科目	考古学Ⅰ	考古学は過去を研究する学問の一つである。本講義では、過去を研究する他の学問との相違について言及したのち、約500万年前にアフリカでサルから進化したヒトがどのような画期を経て今日の人間社会を作り上げてきたのかという歴史の大きな流れについて解説する。つづいて、このような人類の過去の復元に貢献している考古学という学問は何を資料としているのか、それを使ってどのような方法で研究を進めているのか、という考古学の方法について解説する。	
	考古学Ⅱ	奈良時代以後の歴史では、政権の所在地や天皇の在位期間を指標とした奈良、平安・・・明治、大正というような枠組を使うと歴史の変遷を整理することができる。一方、奈良時代以前では、「先土器時代」「縄文時代」「弥生時代」「古墳時代」という別の基準による時代区分法が用いられる。これらの枠組みの名称はどのような経緯で発案され定着したのか？各時代はどのような特徴によって区別されるのか？過渡期では何か廃れて何が勃興してきたのか？その原因・理由は何か？こうした問題について学史をたどりながら講義する。	
	美術史Ⅰ	本講義では、ギリシャ、ローマ、中世、近世における西洋美術を中心に、主として西洋美術作品や画家について解説する。美術は絵画、彫刻、工芸、建築という形で、古来人間の文化的、精神的な生活と深く結びついてきた。またそれは、時代と関連するさまざまな、政治的、社会的、あるいは経済的な背景をもっている。芸術家の個性の現れた美術作品を通して、美に対する眼を養い、深い人間存在の意味について考え、知識として理解することが到達目標である。	
	美術史Ⅱ	本講義では、ルネサンス、バロック、ロココ、19世紀美術など、ルネサンス以後の西洋絵画を中心に、適宜重要な美術作品はスライドを用いて解説する。美術史は何よりもまず「美術作品を実際に見る」ことが大切である。実際に美術館に行って美術作品を見ていただきたい。OHPをつかい、適宜に絵画の画像を映し出して授業を行う。美術作品を通して、深い教養を身につけ、人間の知性的な精神生活、内省的な考察についても理解できるようになることを到達目標とする。	
選 択 必 修 科 目	コミュニケーション論	コミュニケーションの理論を踏まえ、各自が話し方や聴き方など、自分自身に適したコミュニケーションスタイルを身につけ、相互の関係構築がはかれるようにすることを目標とする。講義形式を中心にしながら、グループワークやロールプレイを取り入れ、各自が自らのコミュニケーションについて、振り返りの中から気づきや学びを得られる授業形態とする。コミュニケーションの目的や定義、分類や役割などその機能やスタイルについて基礎知識を深める。	
	身体表現論	多様に広がる身体運動文化であるスポーツとダンスを「身体表現」というくくりで捉え、「身体を介した人間間の相互交流(身体的コミュニケーション)」の視点から、スポーツとダンスの持つ意義と新たな可能性について学習する。具体的には、「身体表現」としてのスポーツやダンスについて、身体、表出と表現、コミュニケーション、動き(技術)、即興性などの様々な切り口から理解を深め、それぞれ関心のある運動種目におけるパフォーマンス向上に活用するための能力を養う。	
	省察的学習論	この授業では「ふりかえりによる学び」について知っていること、実践できることを目標とする。授業は、起こったことをふりかえることで学びにつなげていくプロセスを体験しながら理解する「行為についてのふりかえり」、実践しながら学ぶためのふりかえりについて理解する「行為の中でのふりかえり」、どうすれば「ふりかえりによる学び」が起こるのかについて考える「他者のふりかえりを支援する」の3つのテーマから構成する。ふりかえりの実践全体についてもふりかえり、自分のふりかえりのクセや前提についても理解する。	
学 科 基 礎 科 目	コミュニケーション論	コミュニケーションの理論を踏まえ、各自が話し方や聴き方など、自分自身に適したコミュニケーションスタイルを身につけ、相互の関係構築がはかれるようにすることを目標とする。講義形式を中心にしながら、グループワークやロールプレイを取り入れ、各自が自らのコミュニケーションについて、振り返りの中から気づきや学びを得られる授業形態とする。コミュニケーションの目的や定義、分類や役割などその機能やスタイルについて基礎知識を深める。	
	身体表現論	多様に広がる身体運動文化であるスポーツとダンスを「身体表現」というくくりで捉え、「身体を介した人間間の相互交流(身体的コミュニケーション)」の視点から、スポーツとダンスの持つ意義と新たな可能性について学習する。具体的には、「身体表現」としてのスポーツやダンスについて、身体、表出と表現、コミュニケーション、動き(技術)、即興性などの様々な切り口から理解を深め、それぞれ関心のある運動種目におけるパフォーマンス向上に活用するための能力を養う。	
	省察的学習論	この授業では「ふりかえりによる学び」について知っていること、実践できることを目標とする。授業は、起こったことをふりかえることで学びにつなげていくプロセスを体験しながら理解する「行為についてのふりかえり」、実践しながら学ぶためのふりかえりについて理解する「行為の中でのふりかえり」、どうすれば「ふりかえりによる学び」が起こるのかについて考える「他者のふりかえりを支援する」の3つのテーマから構成する。ふりかえりの実践全体についてもふりかえり、自分のふりかえりのクセや前提についても理解する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 基 礎 科 目	フォロワーシップ論	チームや組織の目標達成のためには、リーダーの助けとなるフォロワーの存在が極めて重要である。フォロワー(follower)とは、リーダーの支持に従って成果をあげるだけのメンバーではなく、リーダーを尊重しつつも、建設的な批判精神を持ってチーム・組織の成功のために自発的に貢献できるメンバーを言う。近年、社会心理学、産業組織心理学、経営学の中でも重視されているフォロワーシップについて考えるにあたり、本授業では、1) リーダーシップとフォロワーシップそれぞれの概念について理解するとともに、2) グループワークやディスカッションを通して、チームや集団におけるリーダーとフォロワーの各役割および機能について理解する。そして、実際に自己の生活の中にあるコミュニティの中で行動できるようになることを目的とする。	
	実践コミュニケーション英語 (Task-Based English)	1年次のねらいは、実用的な英語の習得である。受講生は実際にスポーツその他の活動を行う中で必要とされる英語の四種のスキル(スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング)を総合的に学ぶ。学生生活の中で出会う一般的な課題を解決するために既習の英語表現を用いて自分の意図を相手に伝えることで、持ち合わせている英語を最大限活用して英語に親しむことを促し、相手に正しく伝わるように、適切な単語と文法を用いることを重視する。また、グループでの取り組みが必要な活動を通じてコミュニケーションスキルを培う。授業で行われる活動は、教室内外の様々な場所で行われる。	
	スポーツ関連英語 (English in Action)	2年次のねらいは1年次に学習した英語をより深く掘り下げて、専門的な英語を学ぶことである。スポーツや運動に関する知識や情報を相手に伝えるための表現を学ぶ。実際のニュース番組やスポーツ中継、新聞記事などの内容を理解することで、語彙を増やし、リーディング力、リスニング力を培うとともに、運動や動作、動き方のポイントを伝えるための表現を学ぶ。また、内容を的確に伝えるためのスピーキングやプレゼンテーションやライティングのスキルも併せて学ぶ。	
	英語資格支援講座 (Lifelong English)	3・4年次のねらいは1年次、2年次に学習した英語を振り返りつつ、卒業後に必要な英語力を身に着けることである。そのためにまず学生自身にとって必要な英語の資格もしくはスキルとは何かを考え、就職活動や卒業後の進路に応じて必要な英語テスト(例: TOEIC、TOEFL、IELTS、国連英検等)を選び、受験計画を立てる。現時点での自己の英語力及び弱点を把握して目標点を設定し、学習を進めてゆく。学習計画を立てる、適した教材を選ぶ、様々な学習方法、学習の考察などの効果的な自己学習に必要なスキルもあわせて学んでゆく。	
選 択 必 修 科 目	スポーツ心理学	日常の身体運動やスポーツはさまざまな文脈の中で取り組みされており、その活動目的は教育、競技、レクリエーション、健康・医療と多岐にわたる。多様な活動の中で起こる現象に対して、基礎と応用からの科学的説明を目指すのがスポーツ心理学である。スポーツ心理学は体育、スポーツの実践や指導に寄与するだけでなく、身体運動を手がかりに新たな人間理解を促す可能性を秘めている。本講義の到達目標は、スポーツ心理学領域における応用分野の基礎的な知識を身につけ、体育・スポーツ現場での指導に生かす能力を身につけることである。	
	スポーツ社会学	現代スポーツは社会や個人に対し非常に大きな影響力をもつと同時に、多くのことから影響を受けている。ここでは、スポーツの歴史の変遷を踏まえ、スポーツにおける人間関係やリーダーシップ、フォロワーシップといった集団構造について学ぶとともに、近代オリンピックを取り上げながら、スポーツが商業化していった経緯や経済効果についても学んでいく。さらにはジェンダーや性的マイノリティといった社会問題についてもスポーツの視点から理解を深めていく。	
学 部 基 礎 科 目			

授 業 科 目 の 概 要				
(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	スポーツ政策論	現在スポーツ振興は、各地方自治体の重要な政策として位置づけられるようになり、次々に地方自治体の現状に沿った「スポーツ振興基本計画」が策定されるようになってきた。本講義では、体育・スポーツ政策、スポーツの行政組織、スポーツ振興計画、高齢者スポーツ政策、障害者スポーツ政策、プロスポーツ政策などに焦点を当て、我が国のスポーツ振興の変遷について理解し、今後のスポーツ振興のあり方について検討を加えられるようにする。我が国のスポーツ振興体制、スポーツ政策について理解することを到達目標とする。		
選択必修科目	学部基礎科目	スポーツ教育学	子供の心と体の現状と課題、日常生活や学校生活全般の現状と課題、家庭やコミュニティでのスポーツ活動の現状と課題及び学校での体育授業、中休みや昼休みなどの自由時間活動、運動部活動など学校教育活動全体におけるスポーツ活動の現状と課題を探る。特に、運動する子供とそうでない子供の二極化、小学生の放課後における運動機会の確保、運動部活動における体罰問題やいじめ問題、運動部活動支援員制度などの諸問題を解決するために、自治体、学校、スポーツ系大学、総合型地域スポーツクラブ、スポーツNPOなどが連携したコミュニティにおけるスポーツ教育の在り方について考える。	
		スポーツ救急理論・実習 I	スポーツ活動を実践するにあたって、怪我を被るということは、個人やチームのパフォーマンスおよびモチベーションの向上を阻害する最大の要因となる。よって指導者や競技者は、自他の怪我を防止のために、正しく手当てをする方法を熟知しておくことが必要不可欠である。本実習では、そのための基礎的な救急処置について学習することをねらいとする。日本赤十字社救急法救急員の資格を取得し、スポーツ場面や通常の生活において積極的に手当てができる技術と知識を習得することを到達目標とする。	
		スポーツ史	スポーツは、今日まで平和の象徴とされてきたが、実際には政治的な手段や植民地政策の一環などとして利用されてきた。また、現在のスポーツを取り巻く状況は過度の商業主義や、記録、勝利への追求のあまりドーピングが行われるなどの問題が山積している。このような問題を再び繰り返すことなく、解決するには、過去を明らかにすることが必要不可欠である。従ってスポーツの歴史について学習することによって、現在のスポーツを知り、これからのスポーツがどのような方向へ進んでいくのかについて考察する。	
		スポーツ哲学	現在、スポーツは非常に大きな影響力をもつと同時に、多くのことから影響を受けている。私たちはどのようにスポーツを捉え、どのように実践していけばよいか。スポーツ哲学は、スポーツと人間、あるいはスポーツと世界のあり方を根本から統一・全体的に省みる人生観・世界観の理論的基礎の探究である。スポーツとはいったい何なのか。スポーツはどのようにあるべきか。さまざまな側面から考えられる能力を獲得する。なお、講義内容はあくまで目安であり、最も話題になっているテーマを取り上げる。	
		スポーツ人類学	今日、スポーツは芸術や音楽と同様、人類に世界共通の文化として捉えられ、世界中で享受されている。また、スポーツは文化として独立して存在しているわけではなく、社会文化、精神文化など他の文化要素と複雑に関わり合いながら存在している（文化複合）。そして、それは宗教的儀式（通過儀礼や豊穡儀礼など）における象徴や民族のアイデンティティの確認装置（伝統スポーツなど）などの機能を有している。そこで、本講義では、スポーツ人類学の研究方法と研究領域・対象について講義し、スポーツ人類学に対する理解を深める。	
		安全教育(学校安全を含む)	安全教育では、学校における事故災害の現状、学校安全、危機管理、およびその対応について理解を深める。また、スポーツ活動中における突然死や熱中症などに対する安全対策について学習する。具体的には、学校保健と学校安全の関連、事故災害と災害給付制度、学校の安全教育の点検、教職員の危機管理意識の高揚、子どもの事故防犯意識の高揚、学校・地域のセーフティ・ネットの構築、交通安全の現状と課題、突然死の防止とAEDの導入、スポーツ活動中の傷害予防・熱中症予防、スポーツ活動中の安全対策などを解説する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	スポーツ医学	成長時期から高齢者までのスポーツするのに共通して必要な医学的知識を講義する。おもにメタボリックシンドロームや頭部外傷、脊髄損傷、熱中症などスポーツが原因で後遺症を残すような外傷についてその予防法も含めて講義する。具体的には、スポーツ医学の定義、メディカルチェックの詳細、熱中症の要因・予防・応急処置、脳震盪の要因・予防・応急処置、脊髄損傷の要因・予防、メタボリックシンドロームと運動の関係などを解説する。スポーツの現場で必要な医学的知識を身につけることを到達目標とする。		
選択必修科目	学部基礎科目	スポーツバイオメカニクス	体育・スポーツ運動におけるヒトや用具・用品の振る舞いを、力学的・バイオメカニクスの観点から説明する。そのような理解を進めつつ、実際のスポーツ実践、スポーツ指導において理解しておくべき運動技術的な知識について概説する。本講義の到達目標は、体育・スポーツ運動について、力学的・バイオメカニクスの観点から解釈・説明できる、運動を実践したり指導する際に、技術の正誤を力学的・バイオメカニクスの観点から判断できることである。	
		精神保健学	本講義では、心の健全な発達と増進、ライフサイクルにおける精神障害の予防、社会復帰、福祉などについて学習する。また不登校、発達障害などの、児童・青年期の精神疾患への理解を深める。精神保健やライフサイクルにおける精神の発達について解説した後、精神障害の定義、統合失調症や発達障害などの精神障害の分類、精神科治療や身体療法などの治療法、家庭や学校などの社会における精神保健について言及する。社会福祉士、健康福祉士、介護福祉士、保育士、教員等の養成に必要な知識を習得することを到達目標とする。	
		衛生・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	日本の社会は、かつて感染症や公害などの保健・医療上の課題を抱えていた。現代では高齢化社会の到来によって新たな課題を抱えつつある。また、社会環境の変化にともない健康を阻害する要因も変化しつつある。本講義では現代における健康阻害要因の予防や対策について、特に疾病予防、保健・医療システムについて、社会環境との関連から理解することを目的とする。公衆衛生活動を理解する、現代日本人の疾病予防と健康管理を理解する、ライフステージにおける公衆衛生活動を理解する、環境保健を理解することを到達目標とする。	
		学校保健学	学校保健の仕事の構造とその根拠を理解し、学校保健活動の適切な進め方を学習する。また、今日の児童生徒の健康問題の現状を把握しつつ、学校保健活動がそれらにどう取り組むべきか、その考え方と進め方を学習する。講義では、学校保健の意義と目的、学校保健の構造と内容、学校保健行政と制度、学校保健安全計画、小学校・中学校・高校の保健学習、学校における保健指導・保健管理、学校安全と応急処置、児童生徒の発育発達、喫煙・飲酒・薬物乱用とその防止教育、精神の健康、障害のある児童生徒とその指導を解説する。	
		機能解剖学 I	本講義では、スポーツ・健康科学の分野に必要な生物学および医学の基礎的な知識について、人体の構造を機能と関連させながら講義し、スポーツ外傷やスポーツ障害、アスレティックリハビリテーションや運動トレーニングおよび運動療法などを理解する上での基礎として運動器の解剖学について講義する。はじめに運動器解剖学の基礎、続いて股関節・膝関節・足関節周囲の機能解剖、さらに体幹および肩関節・肘関節・手関節周囲の機能解剖について解説する。機能解剖を正確に理解し、発展科目への基礎とすることを到達目標とする。	
		健康教育学	本講義では、健康運動指導士養成に必要な、生活習慣病や、健康維持のための運動指導について学習する。はじめに神経系、内分泌系や呼吸器系などにおける生活習慣病の基礎を解説し、そのあとメタボリックシンドローム、肥満症、高血圧、糖尿病や関節リウマチなどの各論を解説する。健康運動指導士の養成カリキュラムのための、生活習慣病の基礎的な医学知識と、人の健康を維持・改善するための適切な運動療法の医学的考え方を習得することを到達目標とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツ栄養学 I	スポーツ栄養学の基礎知識を学び、競技パフォーマンスの向上や健康の維持増進に役立つスポーツと栄養の重要性に関連付けた学習を行う。講義では、五大栄養素とそのはたらき、一般健康人とアスリートの食事摂取基準、栄養アセスメント、身体活動とエネルギー代謝、栄養素の消化吸収と代謝、水の代謝と水分補給、サプリメント、予防のための運動と栄養などを解説する。本講義の到達目標は、初歩的なスポーツ栄養学のアドバイスができるようになることである。	
選 択 必 修 科 目	スポーツ生理学	スポーツ生理学とは、運動の発現・維持の生理学的メカニズムとトレーニングに対する身体の機能的適応を学ぶ学問である。本科目では、スポーツ生理学の基礎を概説し、スポーツと遺伝子、栄養、体温調整、コンディショニング、高所・低酸素トレーニング、免疫などの専門知識を解説し、スポーツパフォーマンスの向上、健康の維持増進について生理学的な観点で考える。スポーツ生理学の基礎知識を修得する、基礎知識を基に、スポーツを生理学的な観点から理解できるようになることを到達目標とする。	
	スポーツ運動学	体育教師や各スポーツの指導者が、授業や指導実践の場で直面する問題点を考える。指導（教える側）と学習（習得する側）の表裏の関係を理解し、この運動指導・学習の「実践的立場の理論」について学習する。技能を伝承するという意味を考え、そして現象学的運動のとらえ方を理解することで、学習者の「躓き」や「出来そうな気がする」或いは「上手く出来た!」の面前で、その運動経過の理由を考察できる知識と態度を身につけることを到達目標とする。	
	スポーツ技術・戦術論	チャンピオンスポーツでは、勝利することが第一義である。そのためには、事前に各種の準備をすることになるが、そのうちスポーツ技術および戦術は実戦場面において重要な位置を占めている。本講義では、技術・戦術の原則や実際について、実例を交えながら学習する。本講義の到達目標は、スポーツの技術と戦術の意味について理解し説明できる、スポーツの実践・指導の場面において必要となる諸原則と実際を理解している、勝利に向かって創造的に技術や戦術を考案・実践できるである。	
	体力トレーニング論	本講義では、競技スポーツや健康維持増進のエクササイズなどの基礎となる生理学を理解し、トレーニング実践におけるエネルギー問題や体の仕組み、青少年・高齢者・障害者などを対象とした実践における体力トレーニング問題を理解する。また、競技スポーツ現場だけでなく、健康づくりのためのトレーニングの基礎を学ぶ。方法論だけでなくその生理学的背景を理解して効果的なトレーニングプログラムを立てられるようになることを到達目標とする。	
	発育発達老化の理論・実習	学校体育、競技スポーツ、生涯スポーツなどのあらゆるスポーツ活動において、発育発達段階に応じたプログラムの処方、効果を得たり安全を担保したりする上で重要な要素である。本科目では、ヒトの発育発達と老化に関わる理論を学び、実習形式により自らがデータを取得して分析することにより、学んだ理論を確認する。ヒトの発育発達と老化の概要を理解する、発育発達および老化の程度を評価するための基礎的な技能を習得することを到達目標とする。	
	メンタルトレーニング論	競技力向上を目指した心理的实践として、スポーツメンタルトレーニングとスポーツカウンセリングがある。それぞれ様々な理論を背景にして、多数の方法が紹介されているが、基本概念を熟知していなくては成果を期待することはできない。本講義では、メンタルトレーニングを中心に心理実践の理論的背景、実践方法を学ぶ。本講義の達成目標は、メンタルトレーニングの基本的知識を説明できる、メンタルトレーニングの基本作業を理解し実践できるである。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	アダプテッド・スポーツ論	アダプテッド・スポーツとは、スポーツの用具やルールを工夫・開発し、障がいのある人や高齢者、幼児なども行えよう工夫されたスポーツである。本科目では、主に障がいのある人のスポーツについての講義を行う。パラリンピックを頂点とする障がい者のスポーツはかなり認知されてきたが、未だ様々な課題が存在している。障がいある人の体育・スポーツ活動、健康・体力の状況、障がい者スポーツの発展についての現状や課題について学習する。	
選択必修科目	スポーツ実技科目		
	体づくり運動	本講義では、発育発達に基づいた、からだづくり、動きづくりの基礎を学ぶ。各々の課題に対して改善できるための具体的なトレーニング方法、また多様なスポーツ現場において求められるトレーニング方法を学び、現場に対応できる能力を身につけることを目的とする。本講義の到達目標は、競技力（パフォーマンス）向上を目的としたコンディショニング方法を理解して自ら実践できる、各種トレーニング方法を指導する際に、目的や強化される部位について明確に示すことができ、正確な方法を指導できる力を身につけるである。	
	器械運動	器械運動を実施するうえでは回転感覚、空間認知能力、逆さ感覚、巧緻性など様々な能力、感覚が必要となってくる。これらは、日常生活では感じなくとも時には咄嗟の対応として発揮できなければならない必須の能力である。マット、鉄棒、とび箱の各運動の基本的な技の習得を目指すとともに、段階的指導方法や練習方法を理解し、様々な能力、感覚がより向上できるための理論を学習、実践する。様々な課題を「美しくできる」ことを到達目標とする。また、技の構造を理解し、適切な補助の仕方を身につけることも目指す。	
	陸上競技	陸上競技は、スポーツの基本となる「走る」・「跳ぶ」・「投げる」それぞれの分野から種目が構成され、自己の限界に挑戦する競技である。本講義においては、それぞれの分野から代表的な種目を抽出し、ルールや動作の特性などについて実践的に学習する。具体的には、メンタルトレーニング、アセスメント、リラクゼーション、イメージ技法やピークパフォーマンス分析などを学習し、事例を対象とした分析・討論を実施する。陸上競技のルールや特性について理解するとともに、実践できるようになるが講義のねらいである。	
	水泳・水中運動	本授業では教職課程に必要な、近代4泳法のクロール、背泳ぎ、平泳ぎ及びバタフライの各泳法の技術習得を行い、泳力を高めるとともに、水泳の指導法について学習する。また、健康運動実践指導者資格に必要な基本的な水の特性（水温・水圧・浮力・抵抗）を理解し、水中運動に関わる技術習得及び指導法を学ぶ。さらに水泳・水中運動の生理学、生涯スポーツとしての水泳・水中運動、学校体育における水の事故について理論的に学習することによって、自己保全能力及び安全管理能力を高める。	
	バスケットボール	本講義では、バスケットボールのルール、技術や戦術についての知識を深め、それらをゲームを通して実践することでバスケットボールというスポーツ文化を理論的、実践的に学習する。併せて、エネルギー系外力を中心に運動生活の改善を図る。具体的には、3on3におけるシューティングやグループ戦術の学習を通じてバスケットボールの基礎技術・個人技能を向上し、続いて5on5におけるトレーニング・ゲームや試合を通じてゲーム戦術の基礎と応用を習得する。	
サッカー	世界でもっともポピュラーなスポーツの一つであるサッカーの楽しさや面白さを、実際にプレーをすることを通して実感するとともに、ルールを理解し、プレーに必要な独特な技術や戦術を身につけることを目標とする。また、ゲームの運営、審判法、指導法についても実習する。基礎的体力の向上を図るとともに、サッカーの合理的実践を通してその競技特性を理解する。また、個人技術のみでなく、グループ・チーム戦術及びルールを体得することによって、技術の仕組みや理論について学習する。		

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ラグビー	本講義では、実践を通じて、ラグビーの個人的スキルを向上し、バックラインアタックやディフェンスなどのチームプレイを習得する。将来、受講者自身が指導するという前提のもとラグビーという競技の全体像と原理原則について理解し、簡単な指導法の作成が出来るようになることを目指す。また、学部目標に掲げる「国際人の養成」にもとづき、グラウンドでの講義を英語で行い、ラグビー(スポーツ)に関する英語表現に慣れ、「自ら考え自ら行動する」という主体的な学修態度を身につけることも目標とする。	
選 択 必 修 科 目	アメリカンフットボール	アメリカンフットボールは、華麗なパスやハードなコンタクト、緻密な戦略が魅力のスポーツである。ゲーム自体は肉弾戦の陣取り合戦であるが、1つ1つ作戦を遂行することが特徴的である。この競技の安全な簡易ゲームである「フラッグフットボール」を中心に授業を展開し、競技の魅力を体験する。授業前半では作戦型の陣取りボールゲームを展開しながら技能を習得し、授業後半ではリーグ戦を行う。授業全体を通じて、指導の段階性や、簡易ゲームの扱いを実践し体得することを目標とする。	
	野球・ソフトボール	打撃、捕球、投球、走塁、ルールについて習得、理解することを目標とする。さらに、こうした野球・ソフトボールの基本技術を習得するだけでなく、チームスポーツとしての戦術についても研究し、実践する。ルールを守り、マナーを身につけ、楽しくスポーツすることを学ぶ、野球・ソフトボールのルール及びマナー、基本動作を身につける、チームプレーにおいてコミュニケーションと協調性を身につける、能力の高い人は、その他の人が上手くプレーできるようにアドバイスすることを到達目標とする。	
	バレーボール	バレーボールはネットで分離されたチームが攻撃を組み立てて攻防し合うところに特性があり、面白さがある。ラリーが続くことの楽しさは、円陣パスの延長線上にあるのではなく、攻防を繰り返すラリーにこそ楽しさの本質がある。それに必要なディグ・レセプションやセット、そしてスパイクを含むアタックにといった基本的スキルを獲得することを目標とするとともに、ゲームにおいてそれらを使い分け、適切に動くことのできるゲームパフォーマンスの獲得を達成目標とする。	
	テニス	球技スポーツの一つであり、個人スポーツでもある「テニス」の基本的な理論の学習及びその理論に基づいた体の使い方を実際にボールを打つことにより体験学習し、「テニス」と言うスポーツを理解する。 同時に「テニス」のルール、ポジション(ダブルス)、マナー等を学習する。テニス理論(特に体の使い方)を理解しストローク、ボレー、サーブ等の各ショットが円滑に打てるスキルを習得することを目標とし、尚且つダブルスのゲームが円滑に出来ることを目標とする。	
	バドミントン	バドミントンの競技力は、ほとんどがバドミントン・スキルの優劣で決まる。解剖学や生理学によって裏付けられた合理的なバドミントン・スキルがある一方、誤った理論による指導も残っており、選手の競技力向上を指導者が妨げるケースも多い。本授業では、技術系競技を指導する場合の要点をバドミントンを題材に学ぶと共に、マナー、仲間との協力、スポーツ活動を通じたコミュニケーション能力の向上を目指す。本講義の到達目標は、競技としてのバドミントンを実践できる技能を身につける、バドミントンの指導法を身につけるである。	
	柔道	本講義では、柔道の実技を通じて、礼法と礼儀について学び、立技・寝技を習得し、連続技を習得し、怪我への対処を習得することを目指す。はじめに、柔道衣の着方と礼法、受身、柔道で起こりうる怪我について学習し、袈裟固、横四方固や上四方固などの寝技を習得する。高度な実技を鑑賞したのち、大腰、背負投、釣込腰など立技やそれらの連続技を習得する。柔道の基本を学び、最終的には中級レベルが行う連続技を習得することを到達目標とする。	



授 業 科 目 の 概 要				
(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	剣道	剣道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わう運動である。そこで、中学校及び高等学校学習指導要領保健体育編の「剣道」に例示された技を身に付けるとともに、段階的な指導法や攻撃と防御を分離して判断をしやすくし攻防の楽しさを味わう試合の行い方を理解する。また、実技を通して、剣道の特性や伝統的な考え方を理解し、礼法に代表される伝統的な行動の仕方を身に付ける。		
選択必修科目	スポーツ実技科目	ダンス	ダンスは踊る事だけでなく、鑑賞することやコミュニケーションツールの1つとして生涯にわたり楽しむ事ができる。本講義では、現代的なリズムのダンスや創作ダンスを通じ、非言語表現として、自己、他者との対話ができる身体の育成を目的とする。具体的には現代的なリズムのダンスや創作ダンスの各特性、指導法について学び、後半では仲間と共にダンス作品の創作に挑戦し、発表会を通して発表。鑑賞体験をする。様々なリズム。モノ・テーマや動きに触れ、ダンスの楽しさを知り自由に表現する事の喜びを自己で感じ、仲間と共感することを目指す。	
	新体操	新体操は見た目よりも運動量とコーディネーション能力を必要とするスポーツである。講義では、他の競技にも必要なしなやかな身体の使い方と、周辺視野、身のこなしを学ぶ。また重心別トレーニング法(4スタンス)を用い、効率的な身体的技術的レベルアップを図る。初心者、競技者を問わず、各々のレベルに応じたしなやかな身体の使い方を習得する、自分の重心を知り、身体の軸を意識した動きづくりを行えるようにすることを到達目標とする。		
選択科目	専門発展科目	社会調査法	今日、社会調査は社会科学の研究手法の1つとして、また官庁や企業などの多くの実践活動を遂行していく上での方針策定において、重要な位置をしめている。これは社会調査が実証科学としての社会科学を支える有効な方法であることが広く認識されてきたとともに、行政や企業活動においても、これまでのような勘や経験のみに頼る方法から、科学的根拠に基づく活動が要求されるようになったことによる。本講義では、社会調査の基本的な方法とその有効な利用について考察する。	
		社会心理学	人間と社会との関わりのあり方について理解し、集団や組織の中での相互作用について学習する。家族、職場、学校、サークルなど、人は必ず何らかの集団に所属して生活している。本講義では、集団、そして集合における人間行動を理解するための諸理論と科学的知見について学ぶことを通して対人的な相互作用についての理解を深めることを目指す。周りに人がいるときといないときとでは行動の仕方が違うような個人の行動を促進・阻害し変えてしまう状況や条件について、身近なサークルやバイト先などの集団を例に挙げながら説明を行う。	
		グローバル化と文化	「日本人は〇〇である」といった文化に関する一般認識は、国民意識統合を目的に政治的に創造されることも多い。このような上からの文化に対し、大衆文化や対抗文化のような下からの文化の創造もある。さらにグローバル化状況の下にある現代社会においては、商品生産としての文化の創造がより一層求められるようになっている。本講義では、このような現代文化の在り方について学ぶとともに、現代文化の研究手法についても学んでもらう。	
		障害者福祉論	障害者をめぐる状況は国内・国際的に大きく変化している。本講義では、障害の理念、ICF、障害者の生活と支援の実態、障害者福祉の歴史、障害者福祉に関する法制度とサービス体系等のテーマを通して障害者福祉の現状について学び、障害者の相談援助活動に必要な理念・知識を理解することを目的とする。障害者の生活と支援の実態を理解する、障害者福祉の発展過程・動向・法制度について理解する、障害者自立支援制度の理念と内容を把握し専門職としての役割、および関係機関との連携を理解することを目指す。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	対人関係論	人は誰でも他者との関わりの中で生活している。したがって、人間とその行動を理解するためには、「人と人との関係」という視点が欠かせない。この授業では、最新の研究を紹介するとともに、我々が日常生活の中で感じている心理学的な疑問を解明することを目的とする。特に、自己と対人関係という視点からの解説を行い、人と人が出会う対人コミュニケーション場面において、どのような心理学的法則が働いているのかについて基本的な知識の獲得と理解を深めることを目指す。	
選 択 科 目	国際社会学	「世界の国際人流に関する研究」をテーマとして取り挙げ、①ディアスポラに関する研究、②近年の難民について、③および日本における外国人の3つの視点からについて、研究していく。国際的な人的移動について歴史的視点および近代の世界経済の視点からの理解を目指す、近年のヨーロッパやアメリカ合衆国に向かう難や移民についてその構造や理由について理解する、日本における外国人居住について理解を深めることを到達目標とする。	
	地域社会学	地域社会の歴史の変遷と現代の諸問題をテーマとする。近代日本の地域社会の変化について、戦前から戦後へ、高度経済成長期における地域、コミュニティー形成、消費社会の到来とともに変化する地域社会について概説する。加えて、現代の地域の諸問題とそれに対する解決策の模索について述べる。地域社会の変遷について理解する。グローバルな世界との関係で地域を理解する。原題の「消滅可能性都市」、「地方創生」などの課題について、その原因や取り組みについて理解する。	
	開発社会学	経済開発と同時に社会開発の重要性について、開発経済学に対置される開発社会学の視点から講義する。産業基盤整備中心の経済開発に対して、社会開発は医療や保健衛生、教育などの生活基盤整備に加え、伝統的な共同体を近代的なコミュニティに変えるコミュニティ開発や一人ひとりの潜在的諸能力を活かす人間開発を含む。近年ODA（政府開発援助）や地方自治体、NGO（非政府組織）の国際協力で、社会開発に取り組む例が多くなったが、その問題点を指摘しながら望ましい国際協力について解説する。	
	経営学総論Ⅰ	本講義では、これから経営学を体系的に学ぶための「広義の」経営学について、その概念と内容を身に付けることを主目的とする。そのためにまず理論的支柱となる部分 - 経営学の基礎と成り立ちについて学ぶ。次に枝となる部分 - 各論について学び、2年時以降における各人の進路に応じた体系的学習と主体的科目選択ができるようにする。経営学の基本について理解できる、学んだ知識を用いて実際の企業を分析することができることを到達目標とする。	
	経営学総論Ⅱ	春学期で学んだ経営学の歴史・概要を踏まえて、経営学の体系を形成する組織論、経営戦略論、財務管理論などの各論について学ぶ。企業組織のメカニズムについての理解を深め、2年次以降における専門科目の学びに結び付けると同時に、生涯にわたるマネジメント学習の土台を構築することを目標とする。経営学における各論を理解し、実際の企業分析に応用することができる。専門科目の学習に必要な基礎的な知識を身に付けることを到達目標とする。	
	事業創造論Ⅰ	昨今、企業やそれを取り巻く地域の中で起業家活動に対する関心が高まっている。起業家活動は、低迷した経済や地域を活性化する上で欠かせない成長のエンジンともいえる重要な役割を果たす。本講義では、事業構想の上で直面する様々な課題を一つ一つ取り上げ、それらをどのように克服してゆべきかについて具体的に学修していく。理論だけではなく、実際に自ら起業を果たし、実社会で実証を示している起業家を教室まで招き、生の声で体験や専門分野の知見を披露してもらう。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	事業創造論Ⅱ	本講義では起業家活動の基礎といえるビジネスモデルに関する理論と実践について学ぶ。理論だけではなく、実際に自ら起業を果たし、実社会で実証を示している起業家を教室まで招き、生の声で体験や専門分野の知見を披露してもらおう。本講義を通して、様々な既存のビジネスの特徴や問題点、そして隙間を見出し、各自が自らの力で独自のビジネスモデルを構築できる能力の獲得を目指す。事業創造の基礎理論を修得する、課題解決に必要な論理的思考能力を修得する、他人と協力して問題解決をする体験を積み重ねることを目標とする。	
選 択 科 目	マーケティング論Ⅰ	「マーケティング」は、顧客に商品やサービスを購入してもらうための仕組みづくりである。将来、企業のビジネスマン、メーカーの技術者、アパレルショップの店主など、様々な分野で活躍していくであろうが、そのいずれにおいても「マーケティング」という知識は必要になる。この授業では、実際の企業事例を交えながら「マーケティング」に関する基礎知識について講義する。また、仲間作りや社会人としての基礎能力を養うことも大きな目的である。講義後は、テーマに従いチーム別でディスカッション&発表を行う。	
	マーケティング論Ⅱ	春学期の「マーケティング論Ⅰ」に引き続き、マーケティング論Ⅱではさらにマーケティングに関する知識を深める。特に、現在注目を浴びているサービス・マーケティングとブランド戦略を取り上げ講義する。この授業では、皆さんのコミュニケーション能力も養うことも大きな目的である。グループ内でのディスカッションや発表を予定している。発表も評価も対象となるので積極的に参加すること。サービス・マーケティングを理解し、ブランド論を理解することが目標である。	
	人的資源管理論Ⅰ	本講義では、組織における「ヒト(人材)」のマネジメントに関する理論や基本的な考え方について学ぶ。組織は、一般にヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源を利用して活動している。組織にとって、「ヒト」は必要不可欠であり、おそらくもっとも重要な経営資源といえる。本講義では、企業組織が、組織の目的をより効果的に達成し、組織の強みを維持していくためには、どのような仕組みを用いて人材を活用すればよいのかを学ぶ。	
	人的資源管理論Ⅱ	本講義では、組織内の人材を活用する際に重要なポイントとなるモチベーションや職務満足などの組織行動論に関する理論や基本的な考え方を学ぶとともに、派遣労働やワーク・ライフ・バランスなどの人的資源管理に関する現代的なトピックについて可能な限り事例を交えて触れていく。本講義では、組織における人間の態度・行動に関する基本的な考え方を習得し、将来、人材を活用する場面で問題に直面した時に、問題を論理的に思考・解決する力の獲得を目指す。	
	起業家育成講座Ⅰ	成長社会から成熟社会に変化している日本において、マーケットの縮小、情報過多、価値観の多様化などが起こっており、これまでの起業法では対応できない事が多い。本講座では成熟社会に対応した起業家を育成するために必要なスキルと知識を習得し、いかに会社を起こすかに関する基礎的知識から理論や考え方、応用までを学ぶ。本講座では起業前までの起業家活動(プレアントレプレナーシップ)や起業後スタートアップの段階までを対象とするが、起業だけでなく、家業を継ぐ学生または就職を希望する学生に対しても有益な講座となっている。	
	起業家育成講座Ⅱ	成長社会から成熟社会に変化している日本において、マーケットの縮小、情報過多、価値観の多様化などが起こっており、これまでの起業法では対応できない事が多い。本授業では成熟社会に対応した起業家を育成するために必要なスキルと知識を習得し、現在、社会の切り替わりで何が起きているのか現場サイドでの情報を元に学んでいく。また本授業での内容は成熟社会に通用する人材育成を元に行っているため、起業だけでなく、家業を継ぐ学生または就職を希望する学生に対しても有益である。	

授 業 科 目 の 概 要				
(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	情報学概論Ⅰ	近年の情報通信技術の発達により、これまでの社会、生活が大きく変化を遂げた。さらに、コンピュータやモバイル端末の普及により情報はより身近なものとなり、これからの情報社会を生き抜くためには、情報に対する高度な知識・活用能力が要求される。本講義では、情報の概念、情報処理および情報システムの仕組み等の概要について講義を行い、情報活用に必須となる知識について説明する。情報の概念を理解できる、情報処理に用いられている技術要素を理解できる、インターネットの仕組みを理解できることが到達目標である。		
	情報学概論Ⅱ	情報システムを利用するためには、情報システムの内部の構成、処理の仕組みを把握し、理解する必要がある。本講義では、技術的側面に着目し、コンピュータのソフトウェアの仕組みと動作原理、データの表現、インターネットの仕組みの詳細について説明する。コンピュータのソフトウェアの仕組みが理解できる、コンピュータ上でのデータの表現と処理方法について理解できる、インターネットの仕組みの詳細が理解できることが到達目標である。		
	通信・ネットワーク概論	スマートフォンなどのモバイル通信やインターネットが広く普及し日常生活やビジネスに不可欠な存在となりつつある。便利なツールである反面、使われ方によっては思わぬ危害を加え兼ねない。これらの通信・ネットワーク技術やサービスを正しく理解し効率よくかつ安全に活用することが大切である。本講義では、情報の伝送やスイッチングなどの情報通信の基本的な仕組み、携帯電話や無線LANなどのモバイル・ワイヤレス通信の仕組みや特徴や、インターネットの仕組みやサービス、セキュリティなどインターネットの全般について学ぶ。		
	情報応用システム論	デジタル技術の進展により、テキスト、映像、音声などの情報の取り扱いが容易となっている。企業では情報システムや情報ネットワークなどの情報技術を活用し業務の効率化や品質向上などを図る動きが活発である。情報技術の活用においては関連する人や社会のことも考慮して進めることが重要である。本講義では、デジタル技術とその代表例であるコンピュータ、情報ネットワーク、インターネットの進展、データベース等について学び、この種の情報技術がロジスティクス分野へどのように応用されているかについて具体例を通して学ぶ。		
選択科目	専門発展科目	憲法Ⅰ	日本国憲法の基本原理と憲法において保障されている自由権を中心に学習する。人権保障の核となっている憲法の基本原理に関する基礎的知識をより強固にし、各自由権の背景にある歴史などについて学ぶことによって、個別の人権規定について理解を深めることが、この授業のねらいである。日本国憲法は、様々な権利を個人に保障しており、十分な知識を得ることができる。憲法Ⅰでは、自由権を中心に授業を進めていくので、それらの自由権がどのような権利かということに加え、その権利の持つ問題点についても深く理解できる。	
	憲法Ⅱ	秋学期の「憲法Ⅱ」では、春学期の「憲法Ⅰ」で学習した内容を基礎に、個人の生活により身近な諸権利について、社会権やプライバシー権などを例に、学習していく。それと同時に、日本国憲法が定める統治機構を概観することによって、個人の権利がどのような形で保障されているのかということ、把握していく。「憲法Ⅰ」・「憲法Ⅱ」を通して、個人が有する権利、およびそれを支える統治機構について理解することが、講義のねらいである。		
	スポーツマネジメント概論	日本、そして世界のスポーツを取り巻く様々な環境について理解を深め、そこに存在するマネジメントの基本構造とスポーツ活動の生産に必要なマネジメント機能（ビジネス、マーケティング、オペレーション）を理解し、スポーツとマネジメントの3つの関係について考える。 ① 「in」スポーツにおける個の意欲やストレス、対人理解や状況判断、集団行動やチームワーク ② 「for」する・みる・ささえるといったスポーツ振興のために必要な資源（ヒト・モノ・カネ・情報）とサービスの需要・供給 ③ 「through」スポーツを通じた社会の未来づくりや課題解決への参画		

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツマネジメント演習	現代社会において多様化するスポーツを取り巻く様々な状況について理解を深め、そこに存在するマネジメントの概念・機能・役割などを分析しながら、スポーツに関わる「プロジェクト(事業)」を企画・立案できるようになる。事業計画書の作成を中心に、スポーツ組織、資源、サービス、顧客によって生産されるスポーツ活動のマネジメントについて学び、国際社会と地域社会におけるスポーツマネジメントのあり方とスポーツマネージャーの役割を考える。	
専 門 発 展 科 目  選 択 科 目	スポーツと地域開発	現代の都市や農山村は、グローバル化や少子高齢化にともなう地域経済の停滞やコミュニティの弱体化など、多様で複雑な課題に直面している。このような地域課題を効率よく克服できるひとつのツールとしてスポーツは大きな注目を集めている。本講義では、経済、教育、福祉など多領域にまたがる地域の多種多様な課題克服に対するスポーツの具体的な貢献事例の考察を通じて、スポーツを活用した地域開発の今後の方向性について検討する。	
	スポーツと国際協力	様々な課題を抱える国際社会が「開発」と「平和」が両立する「持続可能な発展」を実現するためには、多様な主体による国境を超えた協働が不可欠である。そして、ここでの協働には全ての領域からの参加が求められておりスポーツも例外ではない。また、国際協力は社会に多大な影響を及ぼすスポーツが自らの正当性を担保するために不可欠な取り組みとなりつつある。本講義では、より良い国際社会の創出を目指すスポーツを活用したイニシアティブの現状と課題を概観し、スポーツと国際協力の関係性について考察する。	
	スポーツマネジメント実習	スポーツ現場での実習を通して、大学内外の団体や専門家などと協働して、スポーツマネジメントについて学習する。実習での自らの取り組みを、計画・実行・評価・改善(PDCA)することで、コミュニケーション、リーダーシップ、フォロワーシップ、観察分析、状況判断、記録管理など、マネジメントの能力向上に繋がる様々な能力要素について理解する。それらの能力要素と自らの能力を照らし合わせて振り返り、専門分野に限らず、国際社会、地域社会の一員として貢献できるマネジメント力の習得を目指す。	
	スポーツ情報・メディア概論	スポーツに情報・メディアはどのように関わっているのかを理解する。 (オムニバス方式/全15回) (④ /7回) スポーツをどのように社会に伝えるか、という媒体＝メディアの作用を無視できない。その作用を知ると同時に競技者には、スポーツすることでなにをどのように伝えたいのか、という自覚が必要となってくる。スポーツが持つ発信力がメディアでどのように増幅、もしくは矮小化されるのかを利し、社会におけるスポーツの役割と影響力について戦略性をもって解析する視点を会得する。 (② /8回) 世界各国の国際競技力向上、特にオリンピックにおいて行われた情報分析活動及び情報戦略活動の事例を参考にしながら、スポーツと情報がどのように多様に関わっているかを概説する。それらがどのように収集、分析、加工され、また発信された結果、スポーツの組織や個人にどのような有益性をもたらすのかを理解する。	オムニバス方式
	ジャーナリズム論・演習	社会で発生した様々な事象は、その多くは新聞やテレビの報道によって伝えられる。そこには自ずと、「ニュース」になるかならないか、という報道機関や記者の価値観が反映する。本論・演習では実際のニュース記事やテレビのニュースがどのように作られているかを検討し、テレビや新聞各紙によって記事の視点がどのような差異があるのかを考察する。さらにはある事象を対象に、自ら取材をして記事を書くことを試みる。それにより、ジャーナリズムの立場から事象をとらえることと、事象の当事者の認識の差異を認識する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツ情報戦略・分析論	国内外に存在するスポーツ情報は、オープンソースや人的なコミュニケーションネットワークを介して収集することが可能である。しかしながら有益な情報を選択し、戦略的に価値のある情報とするためには、文字情報や映像情報を定性的または定量的に分析することにより、インフォメーションをインテリジェンスに発展させることが求められる。そのためには情報の収集、加工、分析、発信のスキームを理解し、スポーツ組織や個人の競技力向上のための戦略立案について学ぶ。	
選択科目 専門発展科目	スポーツ・ジャーナリズム実習	現代において、スポーツの持つ影響力はかつてないほどであり、新しいスポーツ・ジャーナリズムが求められる時代に来ている。本実習では実際のスポーツ・ジャーナリズムの現場で実習し、スポーツ・ジャーナリズムの現状を感得する。現場としては、新聞社及びテレビ局のスポーツ担当部署、また地域スポーツの取材現場などとする。さらにスポーツの現場に赴き、取材し、記事化する。このことにより、ジャーナリズムがスポーツ、社会双方にどのような影響を及ぼしているのかを考察する。	
	スポーツ・インテリジェンス実習	競技力向上のために競技団体では多種にわたるサポートスタッフの存在が求められる。このうち、情報戦略（インテリジェンス）スタッフによる競技成績を用いた情勢分析や競技シミュレーション、あるいは映像分析によるフィードバックは、効果的な成果を生み出すことが期待されている。本実習では、メディア映像などの情報の倫理的扱いと同時に技術的理解をもって、戦略立案となる素材の提供を競技団体または関係組織で実際の現場で活動するインテリジェンススタッフを目指す。	
	コーチング概論	スポーツにおいて、競技力の向上や、底辺拡大のための普及、何よりスポーツによる幸福感の享受にはグッドコーチの存在は欠かせない。コーチング概論では、コーチングの概念を理解するとともに、コーチが身につけるべき、知識、技能、態度について討議をもとに考えを深めていく。特に、コーチ中心のコーチングからアスリート中心のコーチングをキーワードとして、そのためのコーチの役割、コーチングスキル（傾聴）などについて実践を通して学ぶ。またコーチングのプロセスとして、準備、実践、省察、再計画というPDCAサイクルが、コーチ自身の成長のために重要であることを理解する。	
	コーチング演習	スポーツコーチングは、コーチとプレーヤー、そして、それを取り巻く人々と共に行う社会的活動である。コーチング実践において、他者とのコミュニケーションを取るための対他者知識の効果的な活用が不可欠であり、また、対他者的知識の向上には省察的実践などによる対自己知識の向上が必要とされる。本授業では、クエスチョニング、観察、フィードバックなどのコーチングスキルやゲームセンス理論を用いた練習デザインを学び、その実践の積極的な省察によりコーチング実践者としての自己認識を高めることを目指す。	
	専門コーチング演習Ⅰ (子どもスポーツ)	「リズム体操」、「親子体操」、「縄跳び」などを行い、子どものスポーツ指導法や体育実技を実践する。授業を通して身体を動かすことの喜びを経験、理解し、さらにその経験を子どもに提供する手段を身につけることを目標とする。子どもたちの健全な発育発達に貢献できる体育・スポーツのあり方についての知見を深め、また、子どもたちの体力向上のために大切な理論と実技のポイントを分かりやすく解説する。地域スポーツの中の生涯スポーツ、競技スポーツ、プロモーションの方法などについても考える。	
	専門コーチング演習Ⅱ (ボールゲーム)	この講義では、特にゴール型ボールゲームの指導法について実践を通して学んでゆく。ゴール型ボールゲームの技術構造は、ボール操作とボールを持たない動きに大別されるが、その2つの要素を意識しながら、競技に特化するのではなくボールゲームに共通する指導方法について検討していく。また、コーチング演習で学んだコーチングスキルを、実際の練習セッションではどのように活用すれば良いのか、どうすれば指導の成果をあげることができるのかを、実践と省察を繰り返しながら習得することを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	専門コーチング演習Ⅲ (武道)	我が国固有の伝統文化である武道は、一対一で攻防するという運動特性があり、オープンスキル型の運動種目である。そのため、基本練習で身に付けた技を、試合でどのように生かすかという課題がある。そこで、それをつなぐ教材として、球技のように誇張した試合を取り入れたり、段階的に技能を習得する方法を取り入れたりして、武道を楽しく学ばせる指導法を習得する。また、礼などの態度の指導内容を技能と関連付けて行う指導法や、思考力・判断力表現力を高める指導法について習得する。	
専門 発展 科目	専門コーチング演習Ⅳ (表現系スポーツ)	本講義ではダンス及び、表現系スポーツ(新体操・シンクロナイズドスイミング・フィギュアスケートなど)における基礎トレーニング・表現力向上のコーチングについて学ぶ。バランスのとれた柔軟性・筋力の向上と共に「表現する身体」の確立に向けたコーチング計画を考え実践について学ぶ。ダンス及び、表現系スポーツの基礎トレーニングとなるクラシックバレエの基礎を理解した上で、種目・年齢・レベルに応じた指導の展開を計画・実施できることを目指す。	
	コーチング実習	1、2年次に学んだコーチングに関する知識や技能を、指導現場において活用できるようになるために、指導実践を行う。到達目標は、指導計画・練習計画の立案、個人と集団へのコーチングやゲーム中のコーチングの使い分け、プレーヤーの動きの観察・分析、適切な助言(アドバイス)などができるようになることである。また、自らのコーチングについて、様々な時点における省察を通して、行動や思考の改善・強化をできるようになる。実践では、目標設定と活動記録をつけ、自己評価(省察)と担当教員からの評価により学びを深める。	
	プレビジネスプログラムⅡ	日通グループユニバーシティと連携し、「企業と大学が学び合う」をコンセプトに、企業人と大学生がインタラクティブに関わることで学びを促進する。ここでは、日通グループに所属する経験豊富な企業人をメンターとして、1、2、3年次で学んだ様々な能力が、実社会に向けて通用する確かな汎用的な能力に統合できるように少人数での対話や省察を行う。キャリアデザインからライフスタイルに至るまで幅広く社会に向かう準備と多様な年代、思想に触れることで社会におけるコミュニケーション能力を高める。	
選 択 科 目	教育社会学概論	ここでは、教育における諸現象や諸問題を社会学的視点から分析し、状況理解や対応または問題解決が出来るようになることをねらいとする。「いじめ」や「不登校」「少年非行」なども、学校という枠の中だけで考えるのではなく、社会現象のひとつとして捉え、家庭や地域をはじめ青少年文化も含め分析検討する能力を養う。また選抜や配分といった教育の持つ機能や制度、さらに学校文化やネット社会の課題といった社会的な課題についても理解を深めていく。	
	保健体育科教育法Ⅰ	中学校及び高等学校の保健体育の教師として、学習指導要領保健体育編に示された指導内容を十分に理解するとともに、単元を計画したり授業を展開したりするために必要な知識や技能を習得することをねらいとする。また、思考力・判断力・表現力等を高めるための具体的な指導法や21世紀型能力をはぐくむための主体的・協働的な学びができるようなアクティブラーニングなど、保健に関する分野や体育に関する分野に関する様々な指導法について理解する。	
	保健体育科教育法Ⅱ	本授業では、保健体育の教師として授業を計画、実施していくために必要な資質や能力並びに基礎的な知識や技能について理解することをねらいとする。そのために、前半は優れた授業実践から、段階的な指導法や誇張したゲームの行い方、系統性を踏まえた指導の在り方など、保健体育教師の実践的な知識を習得する。後半は、これらを踏まえ、学習指導要領に示された内容を習得させるための単元計画の立案の仕方や学習指導案の作成の仕方などを理解する。	
資格 基礎 科目			

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育原理	教育は、現実の社会と深いかかわりを持っており、教育の重要性は言うまでもない。しかしその一方で、教育界が早急に解決しなければならない課題、例えば「いじめ」や「不登校」といった問題を抱えていることも事実である。本講義では、教育に関する課題を多面的に捉え、その解決方法を考えることができる知識と能力を身につけ、将来指導者として教育現場に立つことを念頭に、理論的・実践的な内容の基礎的事項を中心に進めていく。	
選 択 科 目	エアロビック運動の理論	健康づくり運動において、エアロビック運動は不可欠の運動である。本科目では、エアロビック運動を主に運動生理学の立場から概説し、健康づくりのためのエアロビック運動の指導に必要な知識を身につけることを目的とする。エアロビック運動の定義、エアロビック運動の実際、エアロビック運動の効果、エアロビック運動と栄養、最大酸素摂取量、エアロビック運動の指導などについて学習する。エアロビック運動の基礎理論を習得すること、エアロビック運動の指導現場を経験することを到達目標とする。	
	教師論	教員免許を取得するために必要な科目である。教職の意義や教員の役割、仕事はどのようなものか等について学び、教員としての在り方について考えることをねらいとする。教員の一日、教職の魅力、教育者としての使命、学校の組織、研修、研修会等、教員になる方法、教育法規、教員の義務と服務、教員の資質向上、指導が不適切な教員への対応、学習指導要領、生徒指導全般、生徒の問題行動、特別支援教育、教育実習、教員採用などについて学習する。	
	教育心理学	教育心理学とは、教育という社会的活動を心理学的な観点から分析し、より効果的な教育実践のための知見・技術を研究する心理学の一分野である。本講義では特に発達、学習、知能、パーソナリティといったテーマを軸に、将来、教育・保育に携わる際に必須と考えられる教育心理学の基礎的知見・技術の習得を目指す。併せて、いじめや不登校、学級崩壊といった現代学校教育現場に山積する諸問題を心理学の知見・技術を適用してどのように解決していくかを検討する。	
	教育相談	教職免許を取得することを目的とする学生を対象として授業を行う。教育の現場で出会う子どものさまざまな問題行動に焦点を当て、教師としてのあり方や対応を考えていく。問題行動の理解と対応、家庭や学校外の専門家そして他の教師との連携などの重要性についても講義する。教師となつて、教育現場で出会う子どものさまざまな問題について、その意味を理解できること、それに対処する具体的な方法・アイデアが身につけていることを到達目標とする。	
	生徒指導論	生徒指導とは、学校教育での児童生徒の日常生活について指導をおこなうことを通じて、その人格形成を扶助する活動である。本科目では、生徒指導、進路指導、学級経営の理論、歴史、方法等の検討を通じて、生徒指導の基礎理論を理解することをねらう。教育課程における生徒指導の位置づけや法令上の規定の把握、生徒指導手法の指導計画の作成、学級経営の意義や課題、手法についての知識の習得、部活動指導の意義と課題、手法の開発、いじめ、不登校などについての知識の習得ができることを目標とする。	
	教育課程論	教育課程とは、教育目標・内容・方法・評価からなる、学校教育の教育活動を支える全体計画である。本科目では、教育課程の理論、歴史、方法等の検討と共に、今日的課題を検討することを通じて、教育課程の基礎理論を理解することをねらう。中学校の教育課程の仕組み・内容についての知識を獲得できる、学習指導要領を把握し改訂点や重点化内容を理解できる、教育課程とその編成を理解できる、学校教育の組織的な展開を把握できる、教育課程の目標・内容・編成を理解できることが目標である。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別活動論	特別活動とは、学級活動、児童・生徒会活動、学校行事等からなる教育課程における教科外活動の一領域である。本科目では、特別活動の理論、歴史、方法等の検討と共に、特別活動の指導計画を学ぶことを通じて、特別活動の基礎理論を理解することをねらう。教育課程における特別活動の仕組み、内容等についての知識を獲得できる、特別活動の内容・企画・立案・実施・評価等のポイントを理解できる、学校教育の組織的な展開について把握できる、特別活動の諸領域に関して企画・実施の方法を理解できることが目標である。	
資格 基礎 科目	健康管理学	生涯スポーツ社会を実現するために、スポーツ実践現場でコーチやスポーツドクターとともにスポーツ活動を支えるアスレティックトレーナーが備えるべき医・科学的知識と技能を得ることを目的とする。なかでも健康管理の視点から、スポーツ活動で発生する内科的疾患、内科的疾患におけるスポーツの適用をテーマに講義を行う。スポーツ活動で発生する内科的疾患、内科的疾患におけるスポーツの適用について幅広く考えることができることを到達目標とする。	
	健康づくりと運動プログラム	健康を維持・増進するための効果的な運動について多くの実践例を挙げて解説し理解を深め、有患者（一般健常者）を例とする運動プログラムを立案する。さらに、「加齢に伴う体力の変化」について理解を深めるとともに、「生涯運動（スポーツ）」のあり方について議論する。本授業が、疾病を予防し、人々の健康を保持・増進させていくために活用される科学的な手法であることを学ぶとともに、「人々の健康づくりにどのように貢献できるのか」について考えるきっかけをつくれるよう講義を進めていく。	
	教育方法学	教育方法とは、子供たちに文化を伝達し、それを子供たちが習得することを援助するために教師の行う指導の方法や技術である。現代の教育は学校教育が主流であることを踏まえ、教育の目的を達成するためのテクニックを、理論的・実践的に展開していく。教師に必要な教育方法と技術を学ぶ。学習者と教師の相互作用に必要な学習者モデルと授業内容構造について、理解を深める。教科に関する知識ではなく、学習の効果を高める方法とそれに必要な教師と学習者との間のコミュニケーションの仕組みをとりあげる。	
選 択 科 目	選択初級ドイツ語Ⅰ	初めてドイツ語を学ぶ学生を対象に、人称代名詞と動詞の人称変化、定冠詞と名詞の格変化などの文法を中心に、ドイツ語とはどういう言語か、英語といかに類似し相違するか、を理解しつつ、最初歩のドイツ語運用能力を身につけることが講義のねらいである。ドイツ語のつづりを正しく発音できる、日常のごくやさしい会話文を辞書を引いて理解できる、最初歩のドイツ語文法を習得し、ごくやさしいドイツ語文を辞書を利用して書けることを到達目標とする。	
	選択初級ドイツ語Ⅱ	選択初級ドイツ語Ⅰを修了した学生を対象に、定冠詞と不定冠詞、人称代名詞の3・4格、前置詞の格支配や否定表現と疑問代名詞の格変化などの文法を中心にドイツ語の基礎を総合的に学習し、初歩的なドイツ語運用能力を身につけることが講義のねらいである。初めて見る単語のつづりを正確に読める、やさしいドイツ語文を辞書を引いて理解できる、初歩のドイツ語文法を習得し、日常使われる簡単な表現を辞書を利用して書けることを到達目標とする。	
	選択初級フランス語Ⅰ	初めてフランス語を学ぶ学生を対象に、フランス語の綴りと発音、男性と女性名詞、定冠詞と不定冠詞、性数変化、部分冠詞、否定文と疑問文、所有形容詞などの文の構造、文法を中心に、フランス語とはどういう言語か、英語といかに類似し相違するか、を理解しつつ、最初歩のフランス語運用能力を身につけることが講義のねらいである。最初歩のフランス語を読みことができる、書くことができる、述べることができる、聞くことができることを到達目標とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	選択初級フランス語Ⅱ	選択初級フランス語Ⅰを修了した学生を対象に、第1・2群規則動詞、5構文、疑問代名詞、疑問形容詞、疑問副詞、不規則動詞、命令文、近接未来や近接過去などの文法を中心にフランス語の基礎を総合的に学習し、初歩的なフランス語運用能力を身につけることが講義のねらいである。初めて見る単語の綴りをほぼ正確に読める、やさしいフランス語文を辞書を引いて理解できる、初歩のフランス語文法を習得し日常使われる簡単な表現を辞書を利用しながら書けることを到達目標とする。	
選 択 科 目  外 国 語 選 択 科 目	選択初級中国語Ⅰ	この授業では、初級の中国語について学ぶ。中国の文化を学んだ後、最初の数回の授業でピンイン、音節、四声、母音などの発音の基礎を学習し、数字、地名、時間、年齢などの基本的な単語を学習する。その後、人称代名詞、否定、指示詞、形容詞、疑問詞、時間を表す言葉、量詞、場所を表す言葉、有を使った文、数を尋ねる文などの文法を中心に学んでいく。中国語で簡単な会話ができるようになること、メールでの簡単なやりとりができるようになることが到達目標である。	
	選択初級中国語Ⅱ	この授業では、中国語の基礎を学ぶ。中国語は漢字を使うので、日本人にとっては親しみやすく、簡単に理解できると思いがちである。しかしそれは文字の話であり、発音となるとかなりの違いがある。この授業では、発音、挨拶、願望表現、質問、メールなど会話を中心として授業を行う。中国語で買い物ができるレベルになることが到達目標である。そのためには発音やピンインという発音表記もしっかりマスターしなければならない。その他に、中国語でのメールの打ち方も覚えていただきたい。	
	選択初級スペイン語Ⅰ	スペイン語はスペイン本国と中南米を中心に、約3億人の言語人口を有するグローバル言語のひとつである。本講義では、テキストを使ってスペイン語の基本文法と簡単なスペイン語会話を学ぶ。スペイン語では人称代名詞の主格が省略され、動詞の語尾変化で人称代名詞の主格が判断されるなど、英文法とは異なる点が数多くない。スペイン語を習得するにあたり、動詞の語尾変化は極めて重要なので、これに多くの時間を割くこととする。スペイン語の初歩的な読み書き能力と簡単な会話能力を身につけることが到達目標である。	
	選択初級スペイン語Ⅱ	春学期にスペイン語文法を学んでいることを前提に、より深くスペイン語文法と会話を学習する。目的格の人称代名詞、gustar型動詞、再帰動詞、比較級と最上級、前置詞と関係詞、過去分詞と現在完了形、直接法点過去、過去未来、未来完了、命令形などを中心に学習する。直接法点過去や直接法点過去、接続法などは特に重要なので、なるべく多くの時間を割きたい。基礎的なスペイン語運用能力と会話能力を身につけることが到達目標である。	
	選択初級朝鮮(韓国)語Ⅰ	初めて韓国語(朝鮮語)を学ぶ学生を対象に、基本母音、二重母音、平音、激音などの発音と、叙述形の活用、指示代名詞、目的助詞、所有格助詞、否定文などの文法を中心に学習していく。特に、日本語と似ている韓国語の言葉や文法的な要素は何かを理解していく。全学共通の外国語科目の一つとして、教養と実学に基盤となる語学能力と異文化の理解力を深める。韓国語の発音を習得する、日常のごくやさしい会話を覚えて行く、基礎的な韓国語の文法を理解し、辞書を使って簡単な文章を完成させることが到達目標である。	
	選択初級朝鮮(韓国)語Ⅱ	選択初級朝鮮(韓国)語Ⅰを修了した学生を対象に、実践的な朝鮮(韓国)語の能力を身につける講義である。動詞の現在進行形、尊敬語、接続詞、肯定文・否定文、連体形、未来形などの文法や発音を中心に韓国語の基礎を総合的に学習し、勧誘、希望、理由、経験などに関する基本的な韓国語運用能力を身につけることが本講義のねらいである。初歩の朝鮮韓国語の文法を習得し、日常使われる簡単な表現を辞書を利用しながら書けることが到達目標である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	選択初級ポルトガル語・ブラジル語 I	はじめてブラジル・ポルトガル語を学ぶ学生を対象に、文字の読み方から始めて、簡単な会話を覚え、文法の説明、練習問題やマルチメディアを用いて、ブラジル・ポルトガル語の運用力を身に付ける講義である。ブラジル・ポルトガル語の綴りを正しく発音することができる、日常のごくやさしい会話を聞いて理解して実際に話せることができる、最初歩のブラジル・ポルトガル語文法を習得しごくやさしい表現で書くことができることを到達目標とする。	
	選択初級ポルトガル語・ブラジル語 II	選択初級ポルトガル語・ブラジル語 I を履修した学生を対象に、少し複雑な会話からはじめ、ポルトガル語・ブラジル語特有の表現や文法の説明、練習問題とマルチメディアを用いて、ブラジル・ポルトガル語の運用力を身に付ける講義である。ブラジル・ポルトガル語の文章を正しく発音することができる、日常の簡単な会話を聞いて理解して実際に話せることができる、基本的なブラジル・ポルトガル語文法を習得し簡単な表現で書くことができることを到達目標とする。	
	Comprehensive English 中級 I	本講義では、1年次配当の必修科目「Comprehensive English 初級」を発展させた形で英語の「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能をバランスよく統合させて学習していくことを目標とする。実用的なテキストを用い、ディクテーションなどの活動を通して「聞く」「書く」等の能力を養い、シャドーイングなどの活動を通して「読む」「話す」等の能力を養っていききたい。学んだ英文読解・文法の知識を受身的に終わらせるのではなく、その知識を発信していく学習を通して、総合的な英語力を身につけていきたい。	
	Comprehensive English 中級 II	本講義では、「英語の「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能をバランスよく統合させて学習していくことを目標とする。実用的なテキストを用い、(「Comprehensive English I」で学習したことを踏まえた上で)ディクテーション、ピア・ラーニング、シャドーイング、リーディング、プレゼンテーションなどの活動をおこなう。学習者中心のコミュニケーションな授業展開の中で文法指導と言語活動を一体的に行い、総合的かつ実践的な英語力を一層強化していききたい。	
	English Writing I	本講義では、英作文の能力を伸ばし、手紙やe-mailといった文書を英語で作成することによって、英語を使用した日常のコミュニケーション、さらにはビジネスでのコミュニケーションに対応できることを目標とする。基本的な語彙・熟語・構文・文法を整理しながら、パラグラフ・ライティングの習得を目標とする。和文英訳の作業を通じて語彙力ならびに表現力を高めながら、様々なトピックを取り上げてパラグラフを作成していく。読み手を念頭に置いた客観的な文章を正確な英語で書けるようにする。	
	English Writing II	本講義では、英作文の能力を伸ばし、手紙やe-mailを英語で作成することによって、英語を使用した日常のコミュニケーション、さらにはビジネスでのコミュニケーションに対応できることを目標とする。(「English Writing I」で学習したことを踏まえた上で)複数のパラグラフによるエッセイの作成を目標とする。エッセイの構造を十分に理解し、アウトラインの作成やパラグラフ同士をつなぐtransitionの利用などを習得する。加えて、和文英訳の作業を継続させて語彙力ならびに表現力を一層強化する。	
	メディア英語 I	本講義では、英語を使用したメディア(テレビ、新聞、インターネットなど)を通じて世界の時事的な問題に触れ、グローバルな知識と視野を持つ人材になることを目指す。世界で起きている政治・経済・社会・文化・スポーツなどに関するニュースを通じて“authentic”な英語を学び、生きた語彙や表現を幅広く習得する。短めのニュースや記事を多く取り上げ、メディア特有の英語表現、さらには様々な英語圏の発音・アクセントの特徴を理解することを目標とする。	

選択科目  
外国語選択科目

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	メディア英語Ⅱ	本講義では、英語を使用したメディア（テレビ、新聞、インターネットなど）を通じて世界の時事的な問題を学び、グローバルな知識と視野を持つ人材になることを目指す。世界で起きている政治・経済・社会・文化・スポーツなどに関するニュースを通じて“authentic”な英語を学び、生きた語彙や表現を幅広く習得する。長めのドキュメンタリーや記事を取り上げ、全体的な内容の理解を目標とする。世界で起きている出来事に高い関心を持ち、英語を多種多様な情報を収集するツールとして積極的に扱えることを目標とする。	
選 択 科 目  外 国 語 選 択 科 目	資格英語Ⅰ	本講義では、1年次配当の必修科目「Introduction to TOEIC」の内容をさらに発展させて学習したい者を主な受講の対象とし、英検、TOEIC、TOEFLなどの資格受験を念頭において英語の運用能力を向上させることを目標とする。まず、将来の目標や就職活動に向けた具体的な目標設定を行うことによって積極的な学習意欲を持ち、語彙力の強化を中心としたリーディングならびにリスニングにおける技能の向上を図る。同時に、受験問題の傾向と対策を十分に理解し、高いスコアを取れるようにする。	
	資格英語Ⅱ	本講義では、英検、TOEIC、TOEFLなどの資格受験を念頭において英語の運用能力を向上させることを目標とする。（「資格英語Ⅰ」を受講したものは、その結果に基づき）具体的な目標と学習計画を立て、語彙力の強化を中心としたリーディングならびにリスニングにおける技能の向上を図る。総合的な英語力の強化と連動させながら高度な問題解答のテクニックを身に付け、実践的な受験対策を継続させていく。必要に応じて、スピーキングとライティングの技能を向上させる。	
	English ReadingⅠ	本講義では、英語の基本的な構造（5文型）を理解し、辞書や参考文献などを利用しながら、ある程度のまとまった量の英文を理解できることを目標とする。単語の発音、アクセント、イントネーション、またスペリングなどにも留意しながら、基本的な英語の活用ができるようにする。英語に対する抵抗感を減らすために、できるだけたくさんの英文を読み、語彙を伸ばし、英語の用法に慣れていきたい。英文を丁寧に読み、作者の意図を正確に理解することから始めて、徐々に速読できるようにしたい。	
	English ReadingⅡ	本講義では、英語の基本的な構造（5文型）を理解し、辞書や参考文献などを利用しながら、ある程度のまとまった量の英文を理解できることを目標とする。単語の発音、アクセント、イントネーション、またスペリングなどにも留意しながら、基本的な英語の活用ができるようにする。フレーズリーディングやパラグラフリーディングの指導を行い、テキストの情報や作者の意向を意味のまとまりの単位で理解し、パラグラフ構成の特徴をつかみ、速読する技術を養っていきたい。	
	(外) ビジネス日本語Ⅰ	この授業では、敬語・待遇表現等を復習しながら、日本企業や母国の日本と取引がある企業等での仕事で必要とされるビジネス日本語の基礎を学ぶことを目的とする。就職に有利と言われる「ビジネス日本語能力テスト」の問題も授業で取り組み、応用力が身に付くようにする。人間関係や場面を考えながら会社場面での基本的コミュニケーションができるようになる、会社場面での電話での基本的コミュニケーションができるようになる、基本的なビジネスマナーを理解することを到達目標とする。	
	(外) ビジネス日本語Ⅱ	この授業では、日本企業や母国の日本と取引がある企業等での仕事で必要とされるビジネス日本語の応用を学ぶ。「ビジネス日本語能力テスト」の問題も授業で取り組み、応用力が身に付くようにする。また面接・訪問のマナーやプレゼンテーションなど、実用的な表現を学ぶビジネス・コミュニケーション演習を実施する。人間関係や場面を考えながら会社場面での実践的なコミュニケーションができるようになる、実践的なビジネスメールが書けるようになる、ビジネスマナーを理解することを到達目標とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	English Communication 中級 I	本講義では、「English Communication初級」を発展させた英会話を念頭においた授業を行う。スピーキングとリスニングの理解度をチェックできる教材を使用し、発音、アクセント、日常会話での表現を習得することを目指す。自己紹介、観光、ビジネス、日本紹介など幅広い状況下における英語コミュニケーション能力を養うために、教員と学生、学生同士のペア・ワークを中心に据えた授業を行う。間違いを恐れず、積極的に話し、相手を理解する姿勢を学習者同士のinteractionを通して養っていききたい。	
選 択 科 目	外国語選択科目 English Communication 中級 II	本講義では、英会話を念頭においた授業を行う。スピーキングとリスニングの理解度をチェックできる教材を使用し、発音、アクセントの矯正、日常会話での表現を習得させることを第一の目標とする。「English Communication 中級 I」で学習した内容をさらに発展させて、学習者が英語の生きた語彙や表現を学び、主体的に自己表現活動を行う環境を設定したい。学習者同士のinteractionを通して、順序立てて論理を展開し、意見を述べることのできる発信型の授業を展開していききたい。	
自 由 科 目	資格発展科目 体育授業理論実習 I	体育に関する分野の授業で、生徒に運動の特性に触れる楽しさを味わわせるためには、指導内容を明確にする必要がある。そのために、学習指導要領に示されている8領域のうち、個人的な運動領域である「器械運動」、「陸上競技」、「水泳」及び表現領域の「ダンス」の領域について、優れた教材について実践を通して学び、これらを参考にしながらグループごとに教材づくりをする。さらに、実際に授業を展開することにより得られた課題を修正するなどの学習を通して、保健体育教師としての資質の向上を図る。	
	体育授業理論実習 II	保健体育科の授業実践に必要な知識を学習するとともに、計画—実践—評価の一体化を図る資質・能力の向上をめざす。講義において、学習指導要領、体育の目標構造、スポーツに関する法律ならびに安全について学習し、運動陸上競技、球技や水泳などの各種運動の技術、ルールと指導方法を習得する。さらに、学習指導案の作成とその指導を行う。学習指導要領の内容を理解している、実践的知識に必要な基礎的知識を習得している、計画する視点や方法を習得していることを到達目標とする。	
	体育授業理論実習 III	体育に関する分野の授業で、生徒に運動の特性に触れる楽しさを味わわせるためには、「何を学ぶのか」という学習課題を明確にする必要がある。学習指導要領に示されている8領域のうち、必修領域である「体づくり運動」「体育理論」の2領域について、優れた教材について実践を通して学び、これらを参考にしながらグループごとに教材づくりをする。さらに、実際に授業を展開することにより得られた課題を修正するなどの指導法についても習得し、保健体育教師としての資質の向上を図る。	
自 由 科 目	資格発展科目 教職実践演習	「信頼関係をベースにした確かな指導力を追及する」をテーマに、コミュニケーション、表現、生徒理解、より高い専門性などの力を身に付けることを目的とする。4年間で得た教職に関する技能と実践力のさらなる統合を図り、実際の教育現場に即した課題を学生が主体となり取り組む。具体的には教育実習を振り返り、各自の課題だけではなく現在の学校現場での課題を探り、その課題解決に向けてディスカッションをしていく。また地域の教育委員会等連携し講話や現場見学等を実施資する。	
	教育実習（事前指導）	教育実習は教員免許を取得する上で重要な科目である。この実習によって、教師としての適性を見極め、将来の展望を見据えなければならぬため、この授業では実際に現場に立つ前に、教育実習に対する心構えをはじめ、指導案作りや授業構成・教授法についての基本的なスタイルを学ぶ。作成した指導案に基づいて模擬授業を行うとともに、学生間による相互評価やグループ学習・グループディスカッションを行い、教育実習に出るための教育の基礎を身につける。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育実習 (中学校)	教育実習は、教職課程の集大成であり、今後の自分の進路や方向性を明確にする上でも大切な科目である。教育の現場に身を置きながら、生徒との関係作りや教材研究を深めるなど、教職者としての見識を広め、教育に携わる者の使命や役割を学ぶことをねらいとする。ここでは、模擬授業をはじめ、実習ノートの書き方、自己紹介の実技などより実践的な授業を展開していく。また、事後指導として、教育実習の報告や各自の課題を探求し、グループ討議を通して課題解決を図る。	
	教育実習 (高等学校)	教育実習は、教職課程の集大成であり、今後の自分の進路や方向性を明確にする上でも大切な科目である。教育の現場に身を置きながら、生徒との関係作りや教材研究を深めるなど、教職者としての見識を広めるとともにスポーツの専門性を重視しながら、教育に携わる者の使命や役割を学ぶことをねらいとする。ここでは、体育実技の模擬授業をはじめ、実習ノートの書き方、自己紹介などより実践的な授業を展開していく。また、事後指導として、教育実習の報告や各自の課題を探求し、グループ討議を通して課題解決を図る。	
	教育史	学力低下、「ゆとり教育」批判、不登校、学級崩壊など、いつの時代も教育には社会問題が付きまとっている。しかし、教育とは、そういった時代ごとの社会問題を改善、解決しようとすることで変化をしてきた。この授業では、近代教育制度が整った明治以降の日本の教育から振り返り、各時代の歴史的意義を明らかにすることを目的とする。さらに、現代および未来の教育に向けて、何が必要かを考える能力を身につける。基本は日本の教育史を学ぶが、必要に応じて、諸外国の教育史についての基礎知識を教授する。	
	道徳教育論	道徳教育とは児童生徒の道徳的心情や判断力など道徳性の発達を目指す教育である。本科目では、道徳教育の理論、歴史、方法等の検討し、道徳の時間の指導計画を学ぶことを通じて、道徳教育の基礎理論を理解することをねらう。また、最近の文部科学省の道徳教育に関する政策動向の分析と解題を行う。教育課程上の道徳の位置・目標、道徳教育の意義と課題、諸外国の道徳教育的と日本との違いを理解できること、また、自らの道徳教育が現在の自分に与えた影響を考察できる、「道徳の時間」の指導計画案を作成できることが目標である。	
自由科目 資格 発展科目	学校教育現場実習	学校現場での実習を通して、児童生徒の実態を把握するとともに、現場の教師から児童生徒とのかかわり方などを学び、1年次で習得した教師論などの基礎的な理論について理解を深める。また、2年次以降の専門的な理論の習得に向けた学習意欲を向上するとともに教師になろうとする意欲を喚起することをねらいとする。具体的には、龍ヶ崎市内の小・中学校での教育活動を通して、児童生徒とのかかわりや現場の先生方との交流を深め、実際の教育現場から教師の使命や役割を理解する。	
	介護入門	義務教育教員免許取得志望者介護等体験は、本学では中学校教諭の普通免許状を取得しようとする者が、社会福祉施設や特別支援学校において体験実習を行うための事前準備を行う科目である。そのため、本講義では、介護等体験の意義や目的、社会福祉施設や特別支援学校の概要、児童・生徒や保護者の特性および介護等体験の心がまえを理解し、介護等体験で必要とされる基本的知識と技術の習得を目指し、介護等体験が有意義なものにできるように指導する	
	測定評価理論・実習	本講義では、アスレティックトレーナーが評価をするうえで必要とされる、基本的な検査方法の手技についてその目的と意義を理解する。また、傷害の予防、パフォーマンスの改善につながる、スポーツ動作の観察・分析方法を身につける。本講義の到達目標は、体力測定について目的と意義を理解し各項目の説明と実技ができるようになる、体力測定で得られた測定結果を評価・分析し活用することができる、スポーツ動作を観察して動作に影響を与える機能的要因や体力的要因などを分析することができるである。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	トレーニング実習	健康維持や向上のエクササイズ、競技力上場のトレーニングを「目的」、「手段」、「方法」、そして「トレーニングスケジュール」を理論と実践を通じて学習する。また、トレーニング管理のためにコンピューターを用いたプログラムや各種測定を管理する方法についても学習する。競技スポーツから、健康維持のエクササイズ、高齢者を含む生涯スポーツまで、目的に敵うトレーニングの計画立案、安全な指導とその管理が出来るようになることを到達目標とする。	
自由科目 資格発展科目	コンディショニング理論・実習Ⅰ（基礎）	本講義では、コンディショニングの概念を理解し、ウォーミングアップ・クーリングダウン、ストレッチング、エクササイズや各種テーピングなどを用いた効果的なコンディショニング指導技術の習得を目的とする。コンディショニング指導の基礎と実践を通じて、コンディショニングの理論・技術を理解し、スポーツ活動において高いパフォーマンスを発揮するための、または傷害予防のための具体的な方法を修得し、ウォーミングアップやクーリングダウン、テーピングを中心とした実践能力を身につけることを目的とする。	
	エアロビックダンス	楽しみながら行えるスポーツの一つとして、エアロビックダンスを中心に基礎技術を習得する。多様なライフスタイルに適したダンスプログラム作りを目指す。また、正しい知識と運動強度に基づいたダンスの方法について学習し、ダンスの特性についても学習する。リズム感を体得するために「縄跳び」や「大縄」、「ダブルダッジ」等も行う。到達目標は、リズムが分かるようになり、ステップができるようになり、自身でプログラムが作れるようになり、音楽に合わせて正確に踊れるようになることである。	
	スポーツ外傷・障害と予防	スポーツにともなう障害は幅広く、多岐に及んでいる。本講義のねらいは、小児から高齢者にかけての各年代での代表的なスポーツ障害について講義し、病態生理およびその予防法を理解する所にある。本講義では、外傷の理解、応急処置、スポーツにおける重傷外傷、上肢・下肢・体幹に関する整形外科的障害とその予防、小児のスポーツ外傷と障害、リハビリテーションなどについて学習する。スポーツ外傷を正確に理解することを到達目標とする。	
	ジョギング・ウォーキング	ジョギング・ウォーキングの特徴を理解させるとともに、歩幅の違いや性・年齢・体力の違いによって速度が異なることについて理解する。さらに、いろいろな速さで実際にジョギング・ウォーキングを行い、それぞれの速さごとの特徴および指導上の視点について確認する。また、実際に運動プログラムを作成し、消費カロリーも推定する。シューズの選択や水分補給に関する安全面についても理解する。各個人の運動プログラムが作成できるようになることを到達目標とする。	
	スポーツ救急理論・実習Ⅱ	近年、学校教育（保健体育）の指導者やスポーツ指導者にとって、AEDを使用した心肺蘇生法や指導方法は非常に重要である。AEDを単に使用できるだけでなく、実際心肺蘇生法を指導し、AEDが実際のスポーツの現場に導入されるべきである。本講義ではAEDの使用に加え、2005年心肺蘇生法ガイドラインに準拠した効果的な心肺蘇生法コースを実践できる能力を育成できるように、指導上のポイントを教示する。授業では心肺停止に対する心肺蘇生法の概念と心肺蘇生法に必要な手技を中心に、分かりやすく双方向性に指導していく。	
	健康産業施設等現場実習	運動指導の技能・技術を身につけ、実際に指導者としての体験を得ることを目的とする。実習の運動は、ウォーキング・卓球・ボール運動・リズム体操・ストレッチ体操等である。本講義・実習では、運動プログラムの作成、運動の記録等などの事前指導、健康状態の把握、ウォーキングの指導、屋内での健康体操の指導などについて学習する。また、実習を通して得るものが多いはずであるので、今後の進路に役立たせて下さい。一人で指導できる技術・技能を身につけることを到達目標とする。	

学校法人日通学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成 28 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成 29 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>流通経済大学</b>				<b>流通経済大学</b>				
経済学部				経済学部				
経済学科	250	-	1,000	経済学科	220	-	880	定員変更(△30)
経営学科	150	-	600	経営学科	150	-	600	
社会学部				社会学部				
社会学科	150	-	600	社会学科	130	-	520	定員変更(△20)
国際観光学科	120	20 <sup>3年次</sup>	520	国際観光学科	120	20 <sup>3年次</sup>	520	
流通情報学部				流通情報学部				
流通情報学科	160	20 <sup>2年次</sup> 10 <sup>3年次</sup>	720	流通情報学科	130	-	520	定員変更(△30) 編入学定員変更(2年次△20, 3年次△10)
法学部				法学部				
ビジネス法学科	100	10 <sup>3年次</sup>	420	ビジネス法学科	100	10 <sup>3年次</sup>	420	
自治行政学科	100	10 <sup>3年次</sup>	420	自治行政学科	100	10 <sup>3年次</sup>	420	
スポーツ健康科学部				スポーツ健康科学部				
スポーツ健康科学科	200	-	800	スポーツ健康科学科	200	-	800	
				スポーツコミュニケーション学科	100	-	400	学科の設置(認可申請)
計	1,230	20 <sup>2年次</sup> 50 <sup>3年次</sup>	5,080	計	1,250	40 <sup>3年次</sup>	5,080	
<b>流通経済大学大学院</b>				<b>流通経済大学大学院</b>				
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻(M)	10	-	20	経済学専攻(M)	10	-	20	
経済学専攻(D)	5	-	15	経済学専攻(D)	5	-	15	
社会学研究科				社会学研究科				
社会学専攻(M)	10	-	20	社会学専攻(M)	10	-	20	
社会学専攻(D)	5	-	15	社会学専攻(D)	5	-	15	
物流情報学研究科				物流情報学研究科				
物流情報学専攻(M)	20	-	40	物流情報学専攻(M)	20	-	40	
物流情報学専攻(D)	5	-	15	物流情報学専攻(D)	5	-	15	
法学研究科				法学研究科				
リーガルガバナンス選考(M)	10	-	20	リーガルガバナンス選考(M)	10	-	20	
スポーツ健康学研究科				スポーツ健康学研究科				
スポーツ科学専攻(M)	10	-	20	スポーツ科学専攻(M)	10	-	20	
計	75	-	165	計	75	-	165	